

おもえ たて いせ き ぐ ん
重茂館遺跡群

— 重茂漁港地区漁業集落防災機能強化事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 —
(第4次発掘調査)

2017.2

宮古市教育委員会 (岩手県)

おもえ たて いせ きぐん
重茂館遺跡群

— 重茂漁港地区漁業集落防災機能強化事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 —
(第4次発掘調査)

2017.2

宮古市教育委員会 (岩手県)

序 文

宮古市の歴史は、今から約 12,000 年前までさかのぼります。宮古市内にある約 680 もの遺跡には、先人たちが宮古の地で生きるために自然と向き合い、自然から学び、自然から多くを享受した暮らしの痕跡が残されています。

12,000 年前とは、縄文時代の草創期とされる頃で、この頃の遺跡は県内でもまだその数は限られています。宮古地域ではほかの地域に先駆けて人々が暮らしはじめていたこと示しているのかもしれませんが。

重茂館遺跡群は、中世の城館跡とされる遺跡です。

これまでの調査では、約 4,500 年前の縄文時代の土器や土偶などの貴重な遺物が出土しており、当時の暮らしぶりを伝える貴重な遺跡であることがわかってきました。

第 4 次となる今回の調査では、縄文時代と平安時代の集落跡が見つかりました。特に平安時代の集落跡は、重茂半島で確認された初めてのものとなり、貴重な成果の一つといえます。

最後に、発掘調査ならびに整理作業に多大なご協力をいただいた関係者、関係各位に感謝を申し上げ序文といたします。

平成 29 年 2 月

宮古市教育委員会
教育長 伊藤 晃二

例 言

1. 本書は、重茂漁港地区漁業集落防災機能強化事業に伴い平成25年4月1日～同年7月10日にかけて実施した重茂館遺跡群発掘調査報告書である。
2. 発掘調査の主体は宮古市教育委員会である。発掘調査および本書の執筆、編集は安原が担当し、文化課職員がこれを補佐した。
3. 座標は平面直角座標系X系（世界測地系）に準拠した。
4. 高さは標高値をそのまま使用した。
5. 各遺構の略記号は以下のとおりである。

SI — 竪穴住居跡、竪穴状遺構 SK — 土坑跡 SKP — 柱穴状遺構

目 次

序 文

例 言

目 次

I 調査経過	1
1 調査に至る経過	
2 調査概要	
3 調査体制	
II 遺跡の立地と環境	3
1 遺跡の位置と立地	
2 周辺の遺跡	
3 遺跡周辺の地形	
III 調査の内容	6
1 調査の方法	
2 遺跡の基本層序	
3 検出遺構と出土遺物	
IV 調査のまとめ	39
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図	宮古市位置図	3	第31図	SI5号竪穴住居跡土層断面図(2)	22
第2図	地形分類図	4	第32図	SI5号カマド平面図・土層断面図	22
第3図	周辺遺跡分布図	5	第33図	SI5号竪穴住居跡出土遺物	22
第4図	調査区位置図(1)	6	第34図	SI6号竪穴住居跡平面図	23
第5図	調査区位置図(2)	7	第35図	SI6号竪穴住居跡土層断面図	24
第6図	A区遺構配置図	7	第36図	SI6号カマド平面図	24
第7図	B区遺構配置図	8	第37図	SI6号カマド土層断面図	25
第8図	調査区基本土層図	8	第38図	SI6号竪穴住居跡出土遺物	25
第9図	SI3号竪穴住居跡平面図・ 土層断面図	9	第39図	SI7号竪穴住居跡平面図・ 土層断面図	26
第10図	SI3号炉跡平面図・土層断面図	10	第40図	SI7号カマド平面図・土層断面図	27
第11図	SI3号竪穴住居跡出土遺物(1)	10	第41図	SI7号竪穴住居跡出土遺物	27
第12図	SI3号竪穴住居跡出土遺物(2)	11	第42図	SI11号竪穴住居跡平面図・ 土層断面図	28
第13図	SI14号、SI20号竪穴住居跡平面図	12	第43図	SI11号カマド平面図・土層断面図	29
第14図	SI14号、SI20号竪穴住居跡 土層断面図	13	第44図	SI11号竪穴住居跡出土遺物	29
第15図	SI14号炉跡平面図・土層断面図	13	第45図	SI12号竪穴住居跡平面図	30
第16図	SI20号炉跡平面図・土層断面図	14	第46図	SI12号竪穴住居跡土層断面図	31
第17図	SI14号竪穴住居跡出土遺物	14	第47図	SI12号カマド平面図	31
第18図	SI20号竪穴住居跡出土遺物	15	第48図	SI12号カマド土層断面図、 焼土遺構平面図・土層断面図	32
第19図	SI11号竪穴住居跡平面図	15	第49図	SI13号竪穴状遺構平面図・ 土層断面図(1)	33
第20図	SI11号竪穴住居跡平面図・ 土層断面図	16	第50図	SI13号竪穴状遺構土層断面図(2)	34
第21図	SI11号カマド平面図・土層断面図	16	第51図	SI13号竪穴状遺構出土遺物	34
第22図	SI2号竪穴住居跡平面図	17	第52図	SI21号竪穴住居跡、SK22号土坑跡 平面図・土層断面図	35
第23図	SI2号竪穴住居跡土層断面図	18	第53図	SI21号カマド平面図・土層断面図	36
第24図	SI2号カマド平面図	18	第54図	SI21号竪穴住居跡出土遺物	36
第25図	SI2号カマド土層断面図	19	第55図	SK8号～SK10号陥し穴跡平面図・ 土層断面図	37
第26図	SI2号竪穴住居跡出土遺物	19	第56図	SK16号～SK18号土坑跡平面図・ 土層断面図	38
第27図	SI4号竪穴住居跡平面図・ 土層断面図	20	第57図	SK18号土坑跡出土遺物	38
第28図	SI4号カマド平面図・土層断面図	20			
第29図	SI4号竪穴住居跡出土遺物	20			
第30図	SI5号竪穴住居跡平面図・ 土層断面図(1)	21			

写真図版目次

写真図版 1	1	調査区遠景(1) (北から).....	40
	2	調査区遠景(2) (南東から).....	40
写真図版 2	3	A区完堀 (南東から).....	41
	4	SI3号竪穴住居跡 調査状況 (南から).....	41
写真図版 3	5	SI3号竪穴住居跡 調査状況 (東から).....	42
	6	SI3号炉跡 調査状況 (東から).....	42
写真図版 4	7	SI14号、SI20号竪穴住居跡 調査状況(1) (南から).....	43
	8	SI14号、SI20号竪穴住居跡 調査状況(2) (南から).....	43
写真図版 5	9	SI14号炉跡 検出状況 (南から).....	44
	10	SI14号炉跡 調査状況 (南から).....	44
写真図版 6	11	SI20号竪穴住居跡 完堀 (南から).....	45
	12	SI20号炉跡 調査状況 (南から).....	45
写真図版 7	13	SK8号～SK10号陥し穴跡 完堀 (南から).....	46
	14	SI7号竪穴住居跡 調査状況 (北西から).....	46
写真図版 8	15	SI7号カマド 完堀 (北西から).....	47
	16	SI11号竪穴住居跡 調査状況 (南西から).....	47
写真図版 9	17	SI11号カマド 検出状況 (南西から).....	48
	18	SI11号カマド 完堀 (南西から).....	48
写真図版10	19	B区 調査状況 (南から).....	49
	20	SI1号竪穴住居跡 完堀 (北から).....	49
写真図版11	21	SI1号カマド 完堀 (北から).....	50
	22	SI2号竪穴住居跡 調査状況 (南西から).....	50
写真図版12	23	SI2号竪穴住居跡 完堀 (東から).....	51
	24	SI2号カマド 完堀 (東から).....	51
写真図版13	25	SI4号竪穴住居跡 完堀 (南西から).....	52
	26	SI4号カマド 調査状況 (南西から).....	52
写真図版14	27	SI5号竪穴住居跡 調査状況 (南西から).....	53
	28	SI5号竪穴住居跡 完堀 (北から).....	53
写真図版15	29	SI5号カマド 完堀 (北から).....	54
	30	SI6号竪穴住居跡 調査状況(1) (南東から).....	54
写真図版16	31	SI6号竪穴住居跡 調査状況(2) (南西から).....	55
	32	SI6号カマド 完堀 (南西から).....	55
写真図版17	33	SI6号竪穴住居跡 鉄製品 出土状況 (北東から).....	56
	34	SI12号竪穴住居跡 調査状況(1) (南から).....	56
写真図版18	35	SI12号竪穴住居跡 調査状況(2) (南西から).....	57
	36	SI12号カマド 完堀 (南西から).....	57
写真図版19	37	SI13号竪穴状遺構・SK18号土坑跡 完堀 (南東から).....	58
	38	B区 完堀 (南東から).....	58
写真図版20	39	SI3号竪穴住居跡 出土遺物(1).....	59
	40	SI3号竪穴住居跡 出土遺物(2).....	59
写真図版21	41	SI3号竪穴住居跡 出土遺物(3).....	60
	42	SI14号竪穴住居跡 出土遺物.....	60
写真図版22	43	SI20号竪穴住居跡 出土遺物.....	61
	44	SI2号、4号、5号、6号、7号竪穴住居跡 出土遺物.....	61
写真図版23	45	SI11号竪穴住居跡、13号竪穴状遺構、21号竪穴住居跡 出土遺物.....	62
	46	SI6号竪穴住居跡 出土遺物(1) (鉄製品).....	62
	47	SI6号竪穴住居跡 出土遺物(2) (鉄製品).....	62
写真図版24	48	重茂小学校児童の遺跡見学の様子(2013. 05. 29).....	63
	49	遺跡現地説明会の様子(2013. 06. 08).....	63

I 調査経過

1 調査に至る経過

平成24年3月に、宮古市東日本大震災地区復興まちづくり計画が示された。この中で高台住宅地の整備のため漁業集落防災機能強化事業が計画された。

本事業に先立ち、都市計画課と宮古市教育委員会は事前協議を行い、宮古市教育委員会が事業予定地において埋蔵文化財の試掘調査を実施することとなった。

都市計画課から平成24年9月28日付け都第164号で文化財保護法第93条の通知がされた。岩手県教育委員会から平成24年10月10日付け教生第4-129号により試掘調査実施の勧告がなされた。

都市計画課から平成24年9月28日付け都第165号により試掘調査の依頼がなされた。

宮古市教育委員会は平成24年10月4日付け教文第493号により試掘調査を実施した。

宮古市教育委員会は平成24年11月1日付け教文第573号により都市計画課へ試掘調査の結果を報告した。試掘調査により縄文時代の竪穴住居跡が確認された。

都市計画課から平成25年3月21日付け都第568号により本調査の依頼がなされ、宮古市教育委員会は、平成25年3月28日付け教文第994号により本調査を実施する回答をした。

宮古市教育委員会は平成25年4月1日から発掘調査を開始した。

平成25年5月29日に重茂小、鶉磯小、千鶏小学校の6年生(43名)が発掘現場を見学した。

平成25年6月8日に遺跡現地説明会を開催し、80名が見学した。

平成25年7月10日に発掘調査が終了した。調査の結果、約4,500年前の縄文時代の集落跡、約1,200年前の平安時代の集落跡が確認された。

平成25年11月1日～平成26年3月31日まで調査資料の整理作業を行った。これから継続して、平成28年5月25日～同年12月28日まで資料整理作業を行った。

平成29年2月28日に発掘調査の成果をまとめた報告書を刊行した。

2 調査概要

所在地 宮古市重茂第1地割内
調査期間 (平成24年度) 試掘調査 平成24年10月 9日～同年10月25日
(平成25年度) 本調査 平成25年 4月 1日～同年 7月10日
資料整理 平成25年11月 1日～26年 3月31日
(平成28年度) 資料整理 平成28年 5月25日～平成28年12月28日

3 調査体制

調査主体 宮古市教育委員会 教育長 佐々木 敏夫(～平成25年8月)
教育長 伊藤 晃二 (平成25年8月～)
調査総括 竹下 将男 宮古市教育委員会文化課長(～平成26年度)
高橋 憲太郎 // 文化課長(平成27年度～)
事務担当 鎌田 祐二 // 文化課副主幹兼文化係長(平成27年度～)
調査員 江口邦泰 // 文化課主任文化財調査員(平成28年度～)
安原 誠 // 文化課主任文化財調査員(調査・報告書担当)
伊藤正人 // 文化課主任文化財調査員(平成28年4月～ 名古屋市派遣)
千葉 剛史 // 文化課文化財調査員(平成27年度～)(調査担当)
阿部 豊 // 文化課埋蔵文化財発掘調査員
前川友宏 // 文化課埋蔵文化財調査員
赤沼みちる // 文化課埋蔵文化財調査員

発掘調査作業員

伊藤勝夫 扇田正義 坂本晃 佐々木壽郎 佐々木信晴 澤田榮夫 鈴木祥一
中沢美智子 佐々木亨 崎田妙子 山口道義 米澤豊 加藤有次 西館博文
小林功行 小松義一 鳥居義文 佐々木勉 本田幸紀 山根清美 石崎衛司
三河義郎 鈴木正広 三上武一 佐藤幸子 高坂八重子

資料整理作業員

佐々木則義 佐々木信晴 山口道義 鈴木祥一 澤田榮夫 坂本晃 中沢美智子
三上武一

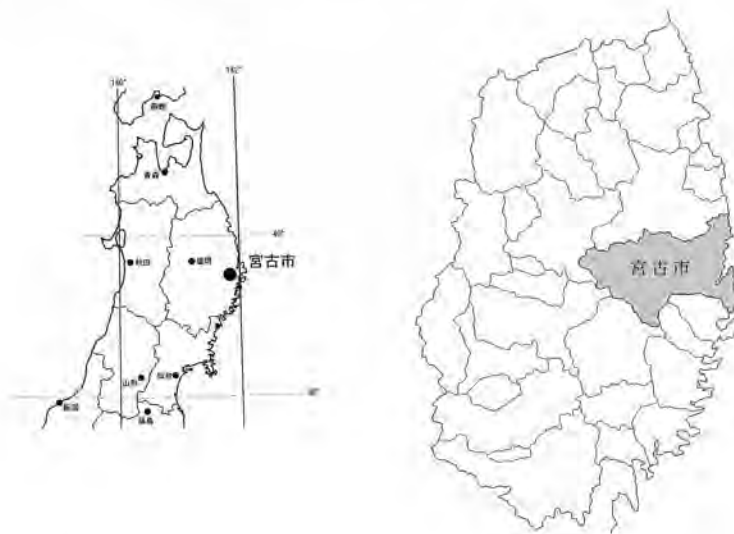
II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置と立地

宮古市は日本を代表する漁場のひとつ三陸海岸の中央部に位置し、本州最東端の町としても知られる。平成17年6月に宮古市・田老町・新里村と合併し、平成22年1月に川井と合併した。市域は1,259Km²、人口は55,000人である。

宮古市の地形は、主な河川である閉伊川、八木沢川、津軽石川とその支流により形成された谷底地形、氾濫平野があるほかは、そのほとんどが山地もしくは丘陵地形となっている。

重茂館遺跡群は、重茂半島の東側、十二神山が源流である重茂川の左岸となる丘陵地にある。遺跡は海に近く、南西にある最寄の漁港までは直線にして1kmほどである。



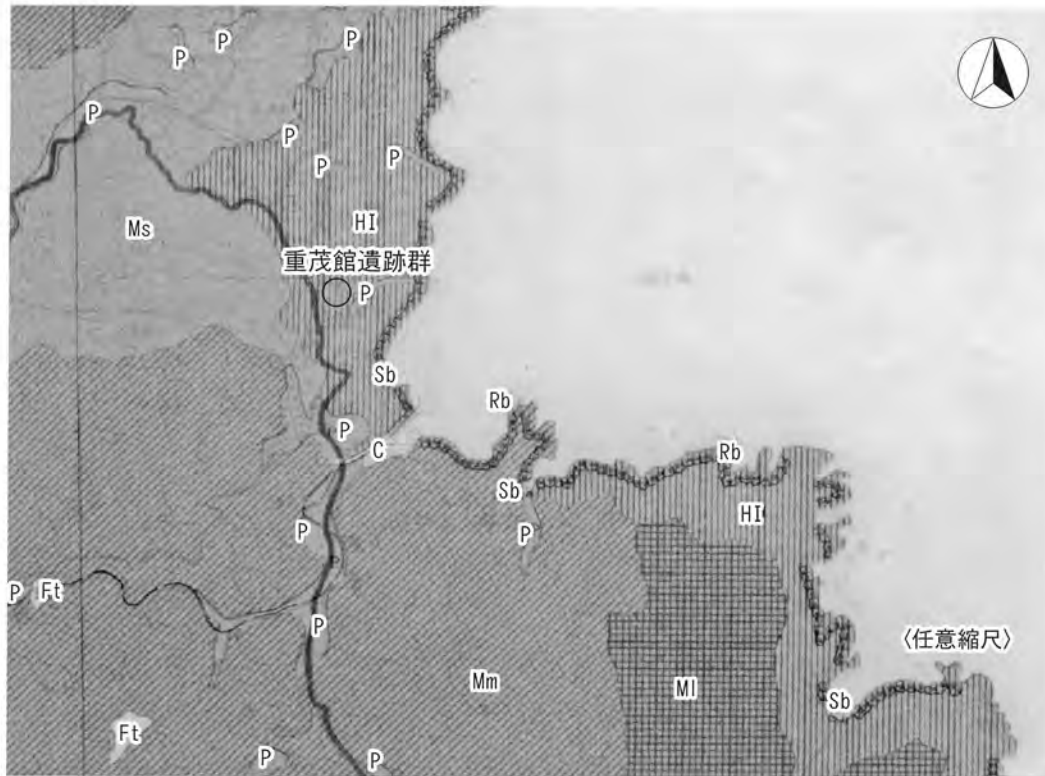
第1図 宮古市位置図

2 周辺の遺跡

重茂館遺跡群は、重茂川より約88mほど高い丘陵地にある。周辺の遺跡も重茂館遺跡群と同じく丘陵地にある。周辺に点在する各遺跡も、丘陵から谷までを含む広範囲となっているものも少なくない。重茂館遺跡群は平成2年と平成20年に本調査を実施している。平成2年の調査では、縄文時代中期を主体とした遺物包含層を確認している。また、平成20年の調査では縄文時代早期末頃の遺物包含層が確認されている。

〈参考文献〉

- | | | |
|----------|----------------------------|-------|
| 宮古市教育委員会 | 『重茂館遺跡群 宮古市埋蔵文化財調査報告書第31集』 | 1992年 |
| 宮古市教育委員会 | 『重茂館遺跡群 宮古市埋蔵文化財調査報告書第79集』 | 2012年 |



凡 例 LEGEND

山 地 MOUNTAINS

- | | |
|----|---|
| MI | 大起伏山地 (起伏量 400m 以上)
Hi relief mountain (relief energy > 400m) |
| Mm | 中起伏山地 (起伏量 400 ~ 200m)
Middle relief mountain (relief energy 400 ~ 200m) |
| Ms | 小起伏山地 (起伏量 200m 未満)
Low relief mountain (relief energy < 200m) |

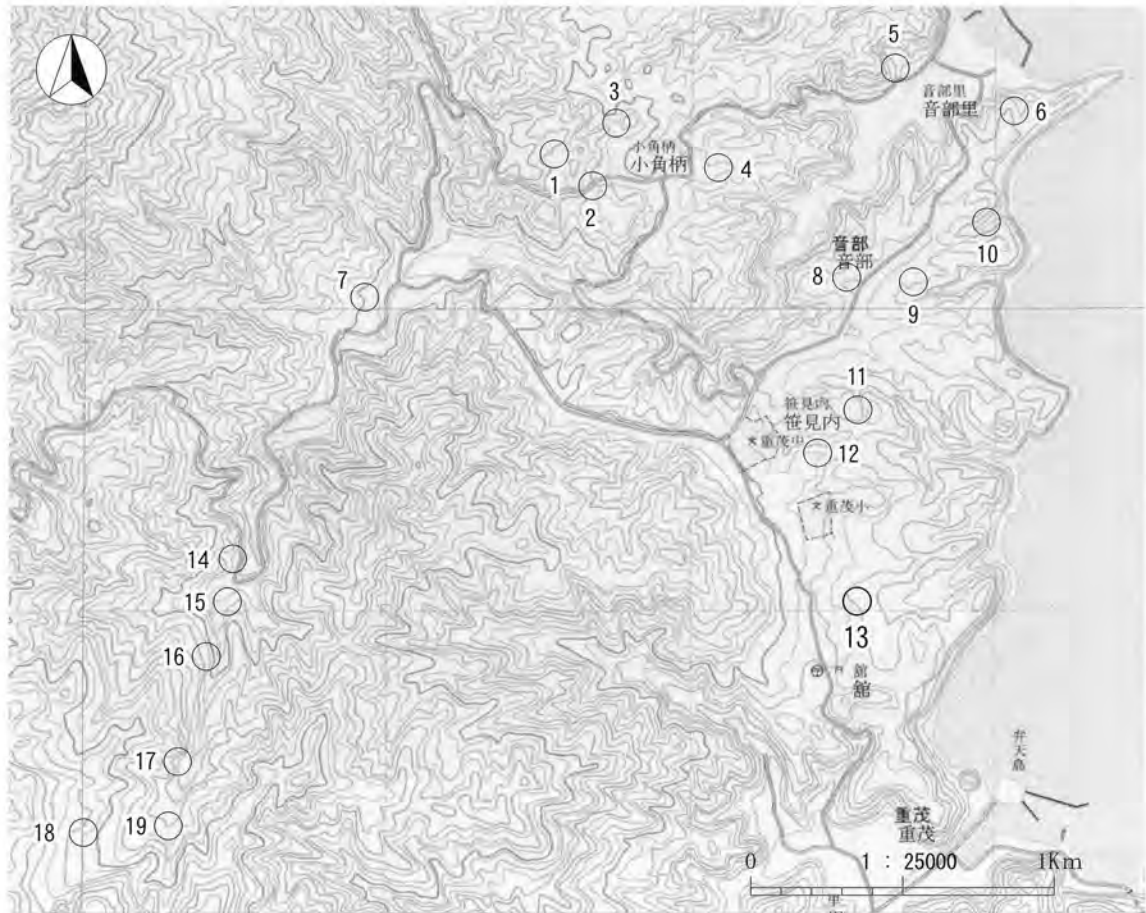
丘陵地 HILLY LANDS

- | | |
|----|---|
| HI | 丘陵地 I (起伏量 200 ~ 100m)
Hilly land I (relief energy 200 ~ 100m) |
|----|---|

低 地 PLAINS

- | | |
|----------|---------------------------------------|
| Ft | 崖錐性扇状地
Talus like fan |
| P | 谷底平野及び氾濫平野
Valley plain |
| Sb
Dr | 浜及び河原
Sand beach and dry river bed |
| Rb | 磯
Rock beach |
| C | 人工改变地
Cut and rolled surface |

第 2 図 地形分類図



No.	遺跡名	遺跡コード	種別	時代	遺構・遺物
1	小角柄Ⅳ	LG45-2154	散布地	縄文	縄文土器
2	小角柄Ⅲ	LG45-2156	散布地	縄文	縄文土器
3	小角柄Ⅱ	LG45-2146	散布地	縄文	縄文土器 (中期)
4	小角柄Ⅰ	LG45-2159	集落跡	縄文	縄文土器 (前・中期)
5	音部大下	LG45-2225	散布地	縄文	縄文土器 (中期)
6	音部谷地頭Ⅰ	LG45-2239	散布地	縄文	縄文土器 (後期)
7	熊の平	LG45-2099	散布地	縄文	縄文土器 (前期)
8	音部追磯	LG45-2294	散布地	縄文	縄文土器
9	音部谷地頭Ⅲ	LG45-2296	散布地	縄文	縄文土器 (中・後期)
10	音部谷地頭Ⅱ	LG45-2268	散布地	縄文	縄文土器 (中・後期)
11	笹見内Ⅱ	LG55-0234	散布地	縄文	縄文土器
12	笹見内Ⅰ	LG55-0242	散布地	縄文	縄文土器
13	重茂館遺跡群	LG55-0284	集落跡・城館跡	縄文・古代・中世	縄文土器 (前～晩期)、主郭、二の郭、腰郭、砦、空堀、土師器、須恵器
14	麦生野Ⅰ	LG55-0083	散布地	縄文	縄文土器
15	麦生野Ⅱ	LG55-1004	散布地	縄文	縄文土器 (前・中期)
16	麦生野Ⅲ	LG55-1022	散布地	縄文	縄文土器
17	麦生野Ⅳ	LG55-1052	散布地	縄文	縄文土器
18	麦生野Ⅵ	LG54-1379	散布地	縄文・古代	縄文土器 (後期)、土師器
19	麦生野Ⅴ	LG55-1071	散布地	縄文	縄文土器

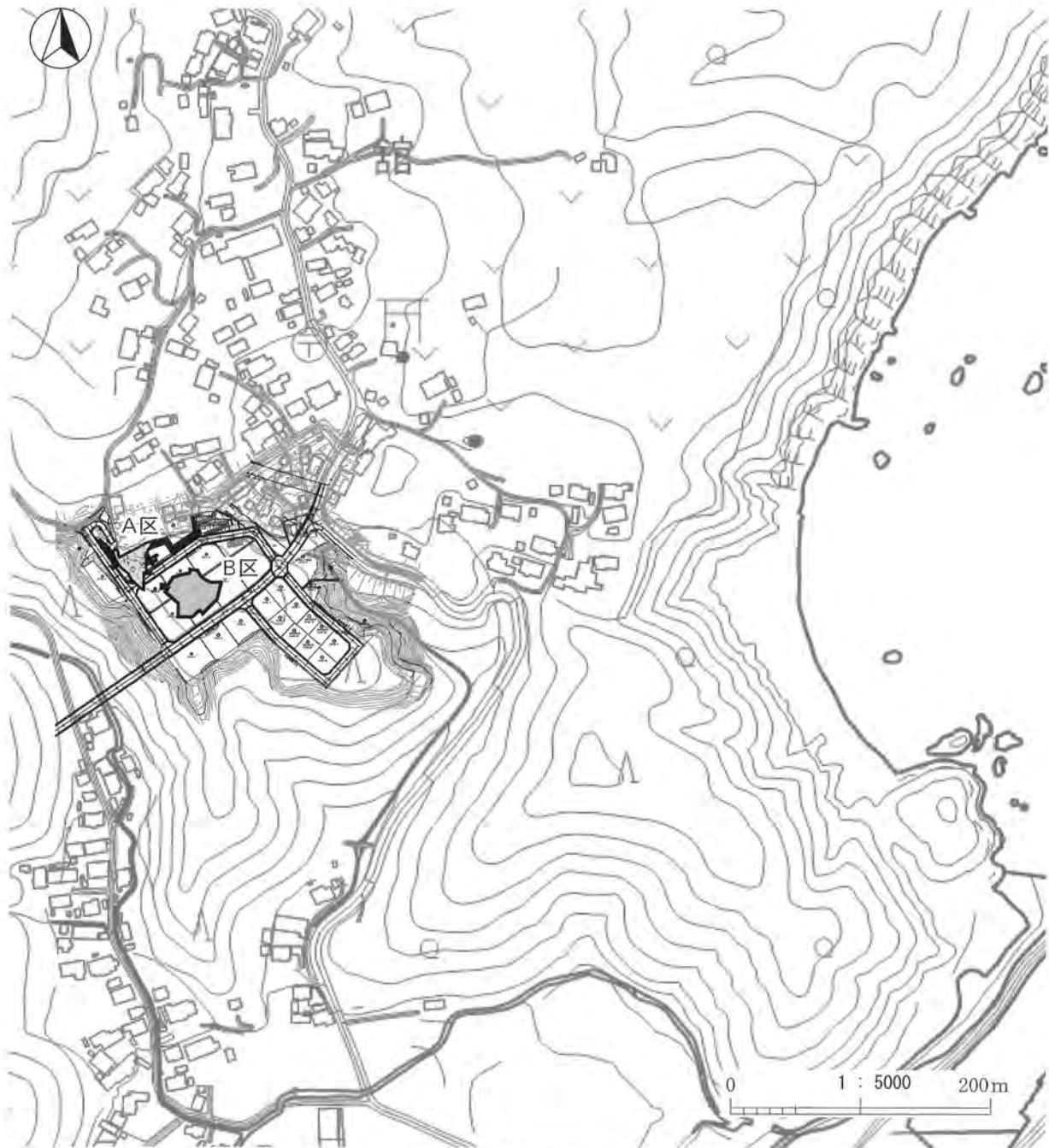
第3図 周辺遺跡分布図

Ⅲ 調査の内容

1 調査の方法

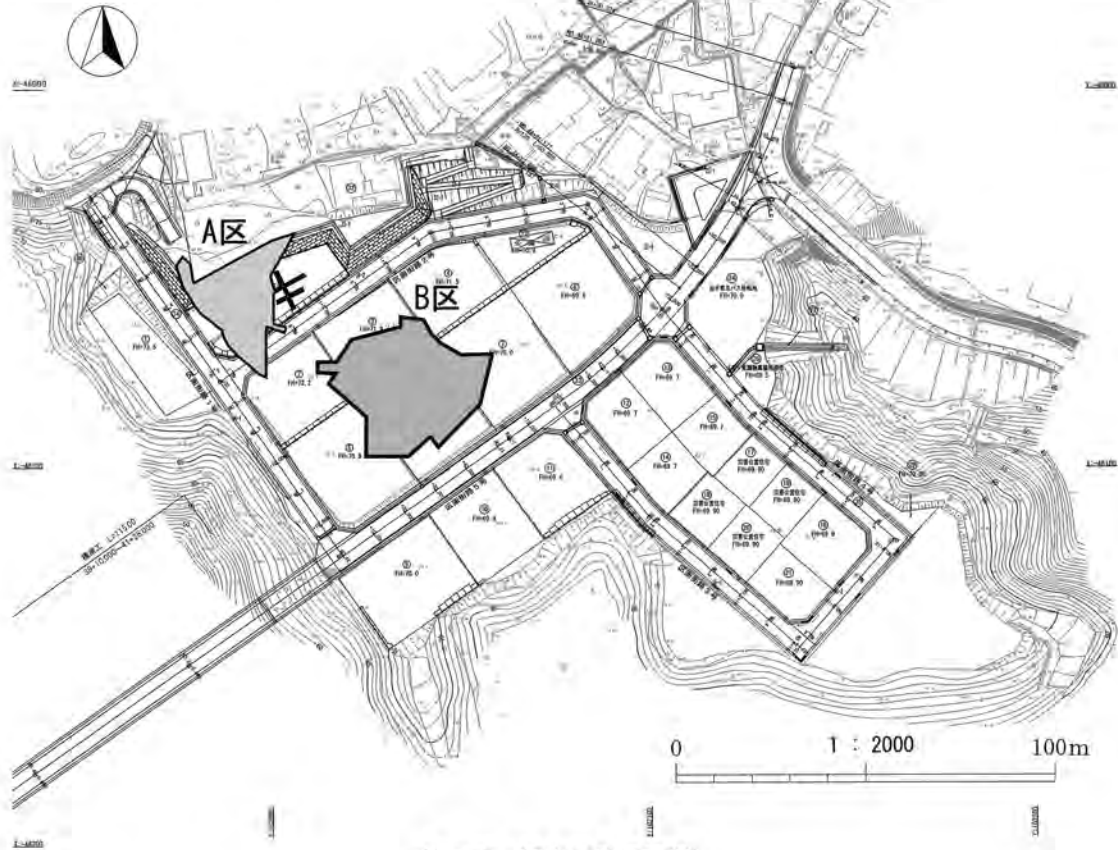
調査区の現況は山林である。調査対象面積は63,919㎡である。平成24年10月に対象地域の試掘調査を実施した。試掘調査の結果により遺構・遺物が確認された3,800㎡について本調査を実施した。調査は、調査区が山林であるため立木伐採が済んだB区から開始した。

A区は、伐採終了後、B区の調査と並行して行った。調査区は便宜上、A区(西側)、B区(東側)とした。A区とB区間の地点は、北向きの斜面となっている。この傾斜部分については、A・B両区からトレンチを設定して調査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。

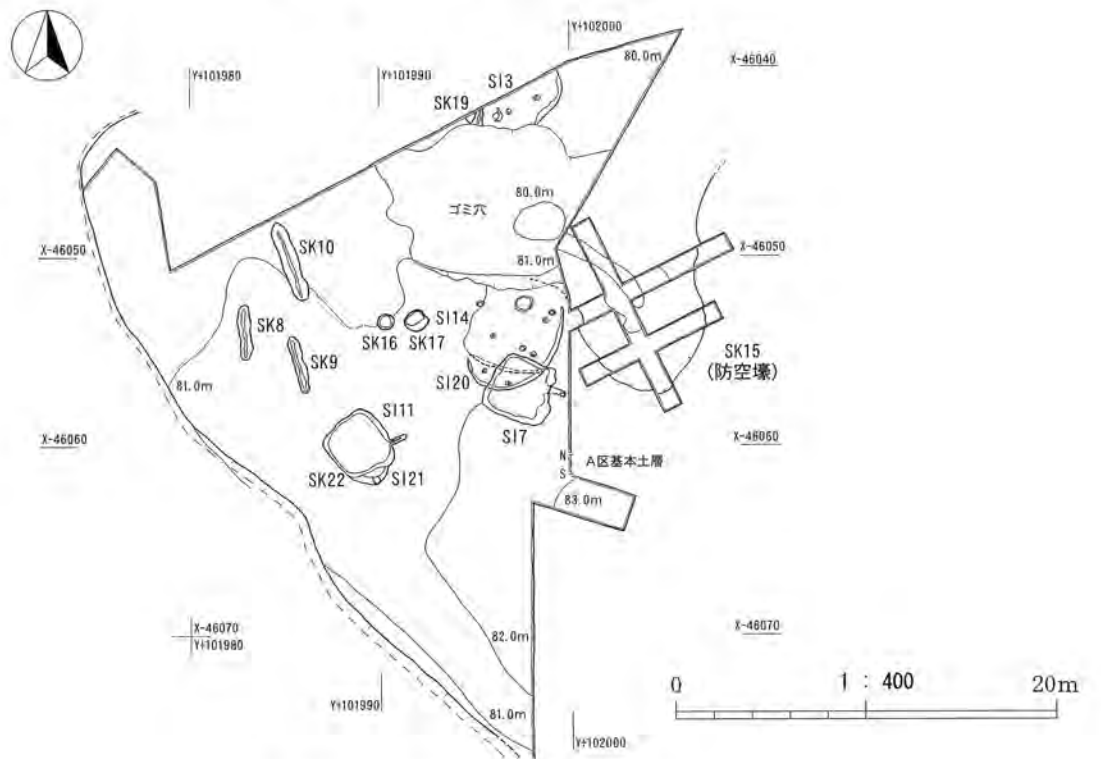


第4図 調査区位置図(1)

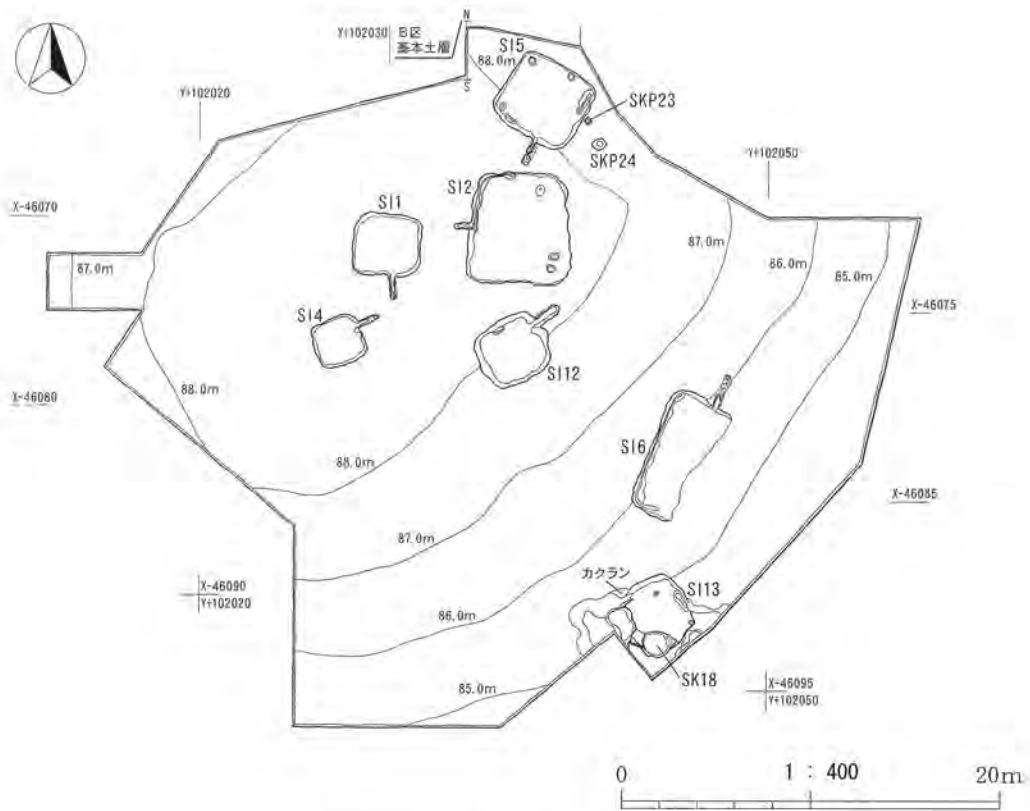
土地利用計画図



第5図 調査区位置図(2)



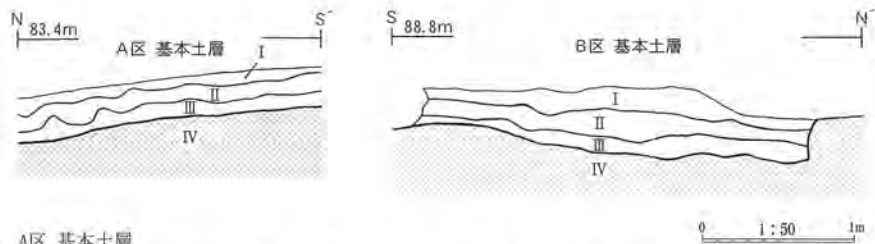
第6図 A区遺構配置図



第7図 B区遺構位置図

2 遺跡の基本層序

調査区の基本土層を確認するため、A区は調査区南側にて、B区は調査区の北側にて基本土層図を作成した。IV層は地山である



A区 基本土層

- I シト質埴土 (10YR2/1) 10YR6/2 径5~10mm 塊状 5% ややしト質 礫 (表土層)
- II シト質埴土 (10YR6/2) 10YR7/6 径10~50mm 塊状 5% シト質 礫
- III 軽埴土 (10YR3/1) 10YR5/3 径2~10mm 塊状 10% 砂質 礫

B区 基本土層

- I シト質埴土 (10YR2/1) 10YR6/2 径5~10mm 塊状 5% ややしト質 礫 (表土層)
- II シト質埴土 (10YR6/2) 10YR7/6 径10~50mm 塊状 5% シト質 礫
- III 軽埴土 (10YR3/1) 10YR5/3 径2~10mm 塊状 10% 砂質 礫

第8図 調査区基本土層図

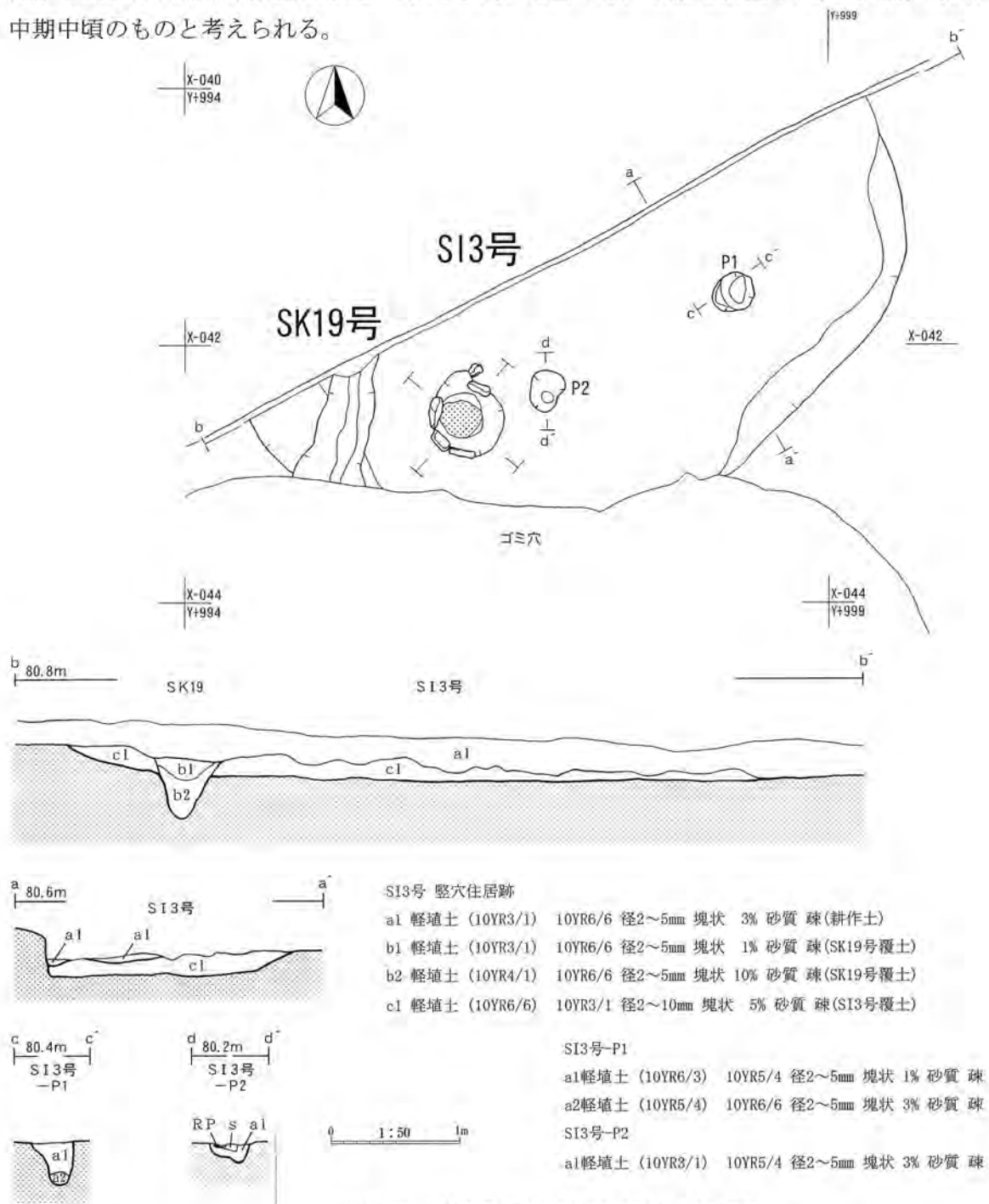
3 検出遺構と出土遺物

SI3号竪穴住居跡(第9~12図)

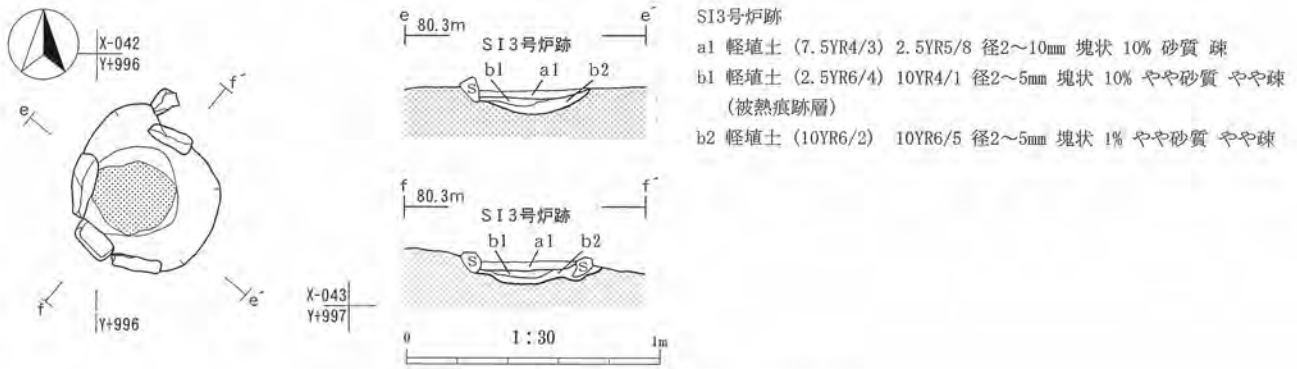
〈検出状況〉A区北側、IV層面で円形の掘り込み跡を確認した。

〈規模・形態〉遺構の大半は北側の調査区外まで広がる。南側は攪乱により消失している。西側は木根により攪乱を受けている。北東-南西間で5.4m、深さ0.31mの円形の掘り込みを確認した。SI3号は、SK19号と重複し、SI3号が古い。覆土は単層である。柱穴状の掘り込みを2基確認した。

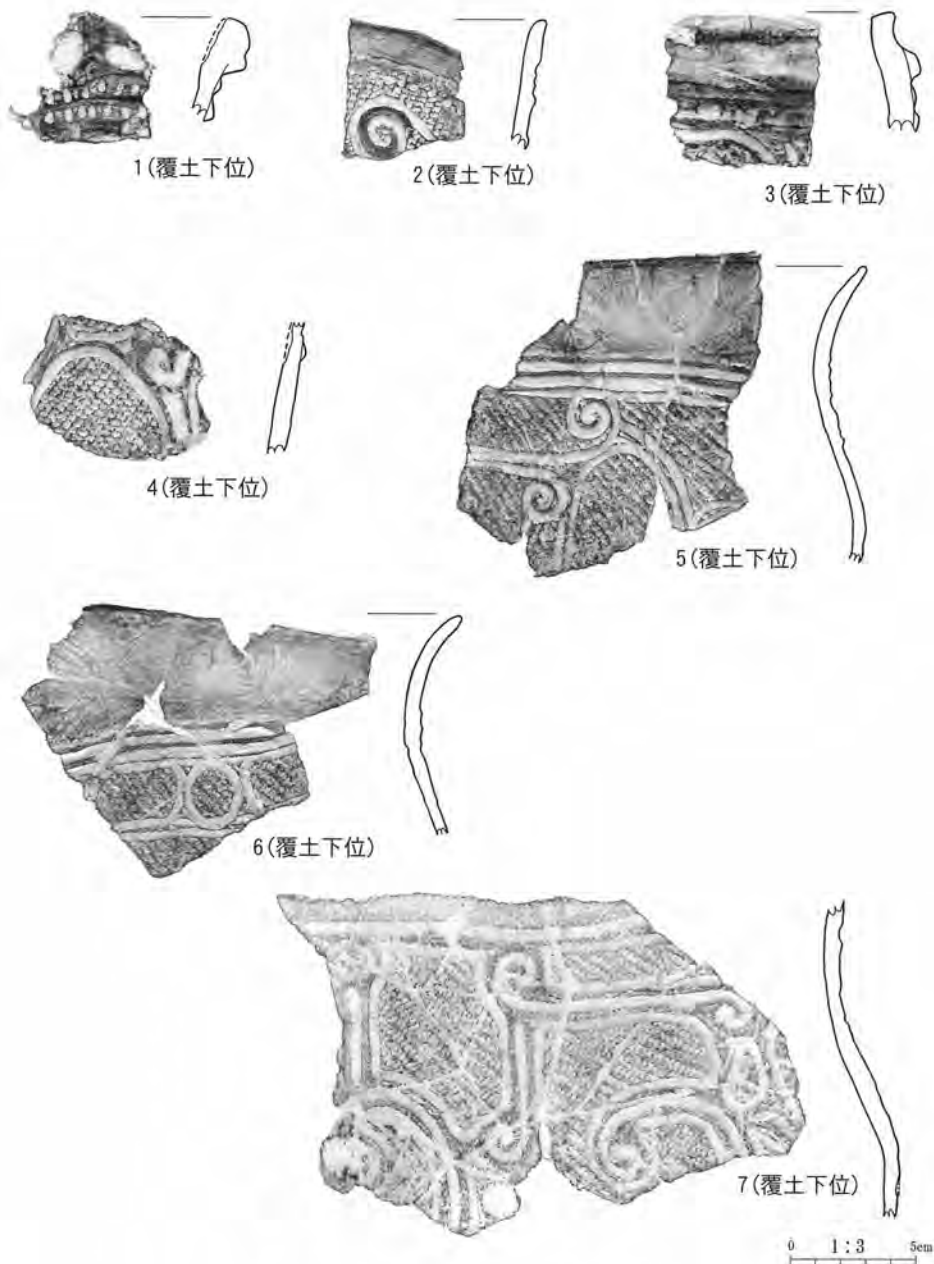
〈炉跡〉西側で確認された。石囲炉であり、中央部が被熱により変色している。〈出土遺物〉覆土下位から深鉢の口縁部片が出土した。大木8b式に相当する。石鏃も出土した。〈時期・時代〉縄文時代中期中頃のものと考えられる。



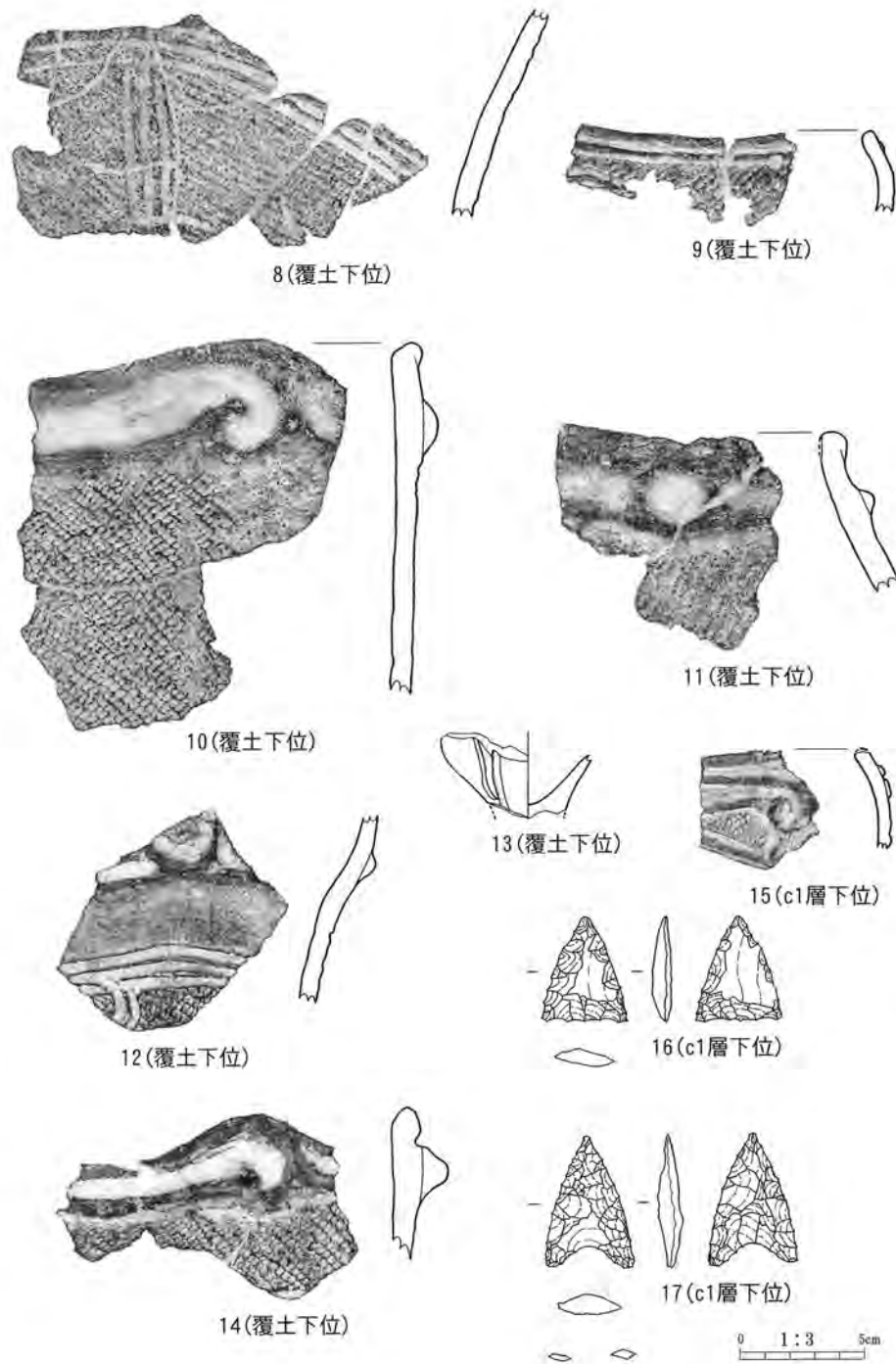
第9図 SI3号竪穴住居跡平面図・土層断面図



第10図 S13号炉跡平面図・土層断面図



第11図 S13号竖穴住居跡出土遺物(1)



第12図 SI3号竪穴住居跡出土遺物(2)

SK19号陥し穴跡(第9図)

〈検出状況〉A区北側、IV層面で溝状の掘り込み跡を確認した。

〈規模・形態〉陥し穴跡と考えられる。遺構は、南側が攪乱により消失しており、北側は調査区外となっている。幅は土層断面の位置で0.54m、深さは検出面から0.48mである。SK19号はSI3号と重複し、SK19号は新しい。覆土は2層に細別される。〈出土遺物〉なし。〈時期・時代〉縄文時代のものである。

SI14号竪穴住居跡(第13~15、17図)

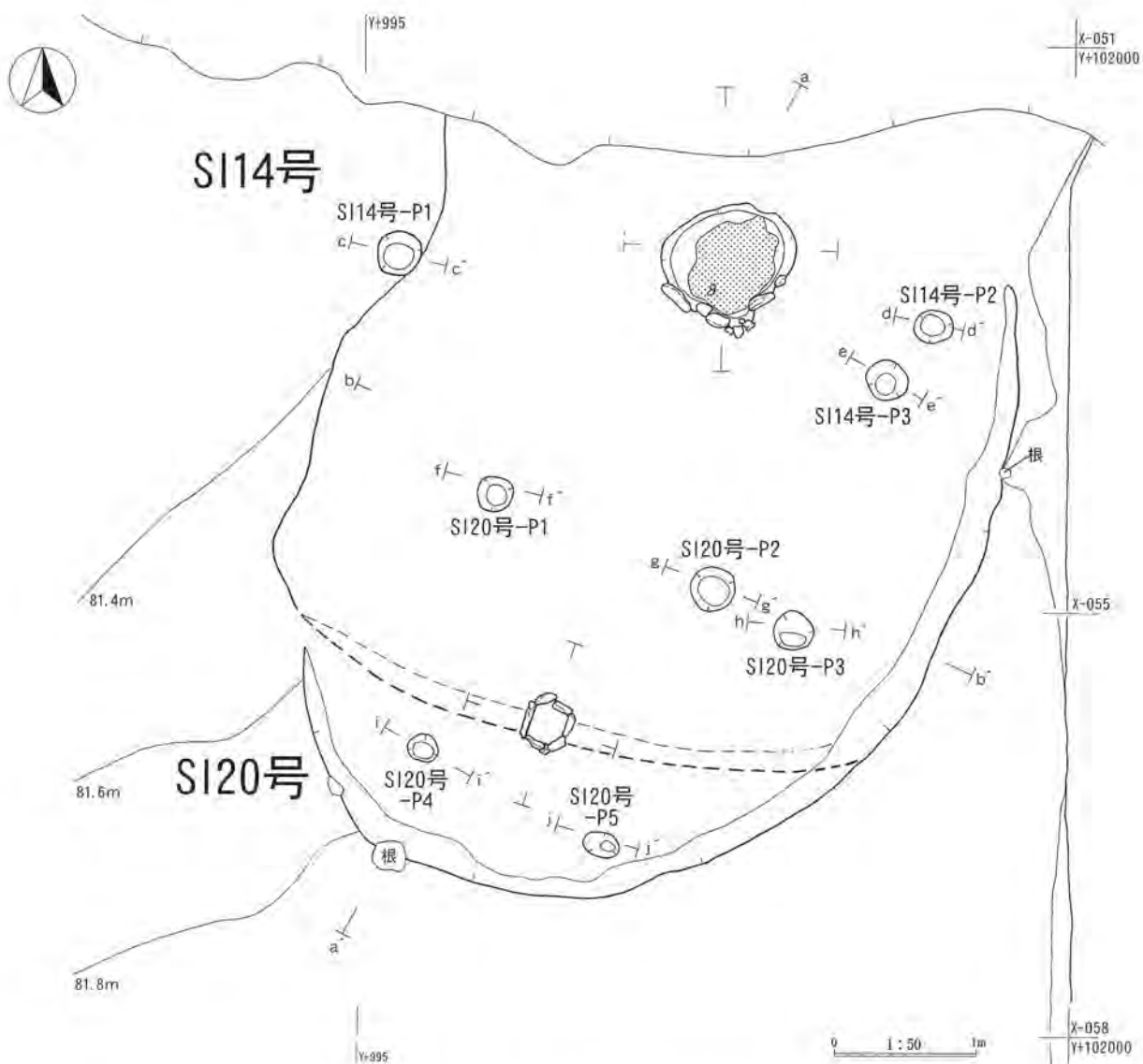
〈検出状況〉A区東側、IV層面で不整形形の掘り込み跡を確認した。

〈規模・形態〉SI14号と20号は重複しているが、調査時に新旧の判断ができなかった。SI14号が新しい可能性があるとして推定した。SI14号は北側が攪乱により消失している。西側も消失している。遺構の大きさは南北3.44m、東西5.03m、深さ0.32mである。覆土は3層に細別され、自然堆積と考えられる。柱穴状の掘り込みを8基確認し、位置関係からSI14号とSI20号のものとして振り分けている。

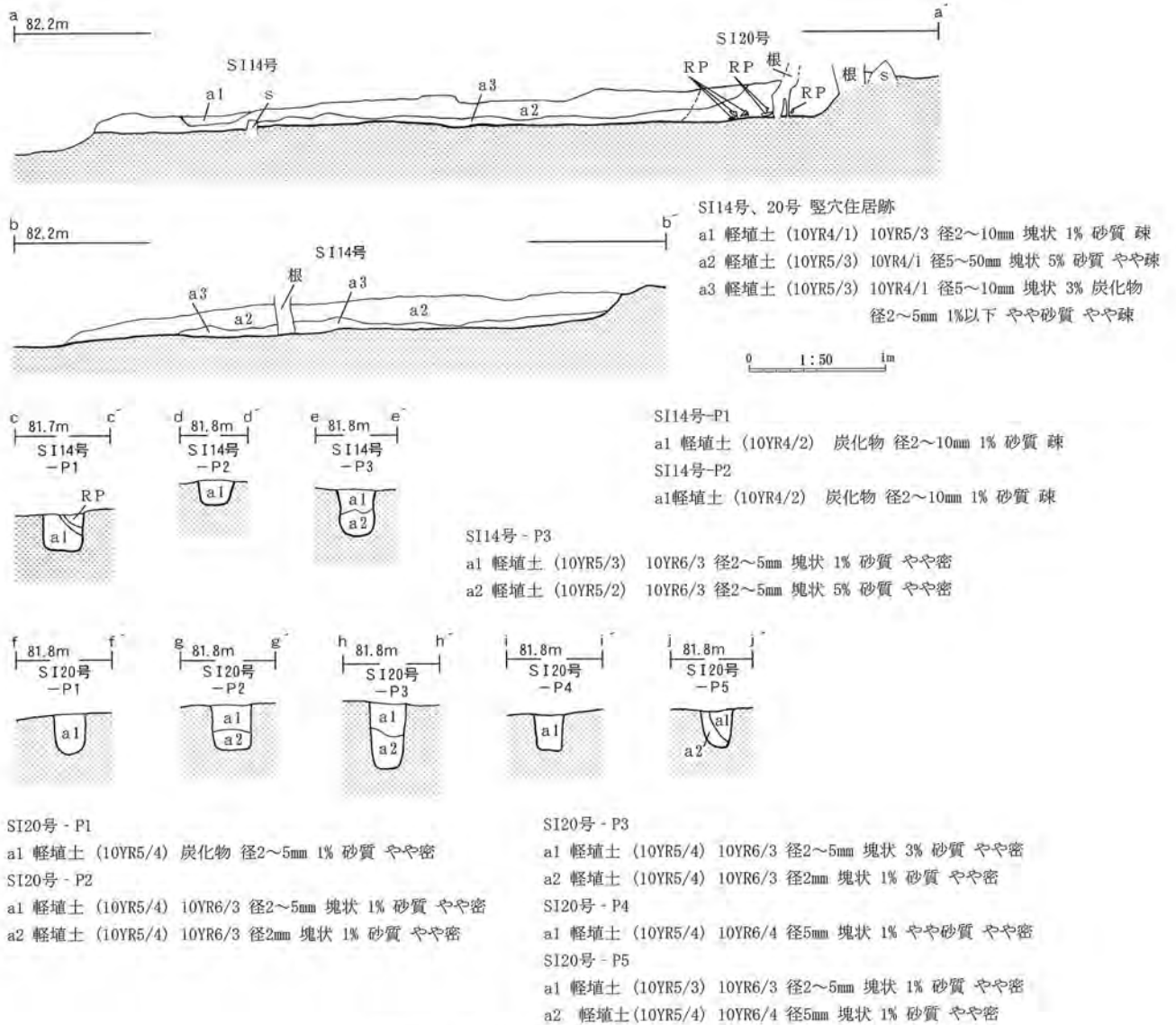
〈炉跡〉石囲炉を確認した。石組みは南側でのみ確認した。炉底部分が被熱により変色している。

〈出土遺物〉a2~a3層中から深鉢の口縁部が出土した。大木8b式に相当する。

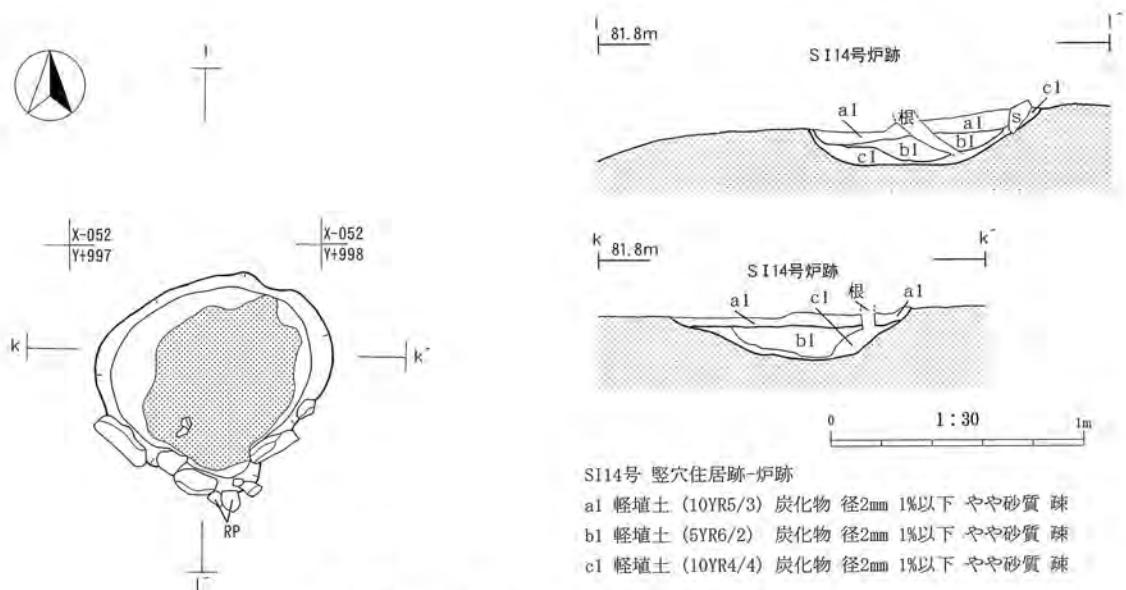
〈時期・時代〉縄文中期中頃のものと考えられる。



第13図 SI14、20号竪穴住居跡平面図



第14図 SI14、20号竖穴住居跡土層断面図



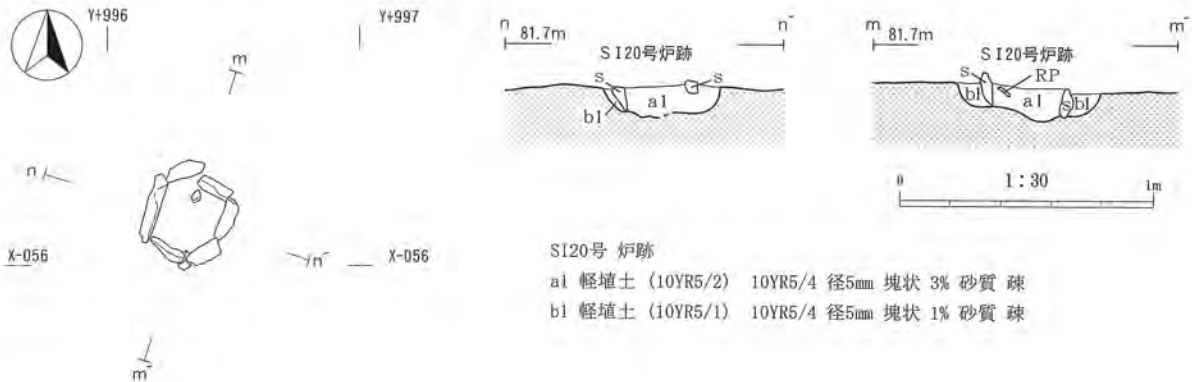
第15図 SI14号炉跡平面図・土層断面図

SI20号竖穴住居跡(第13、14、16、18図)

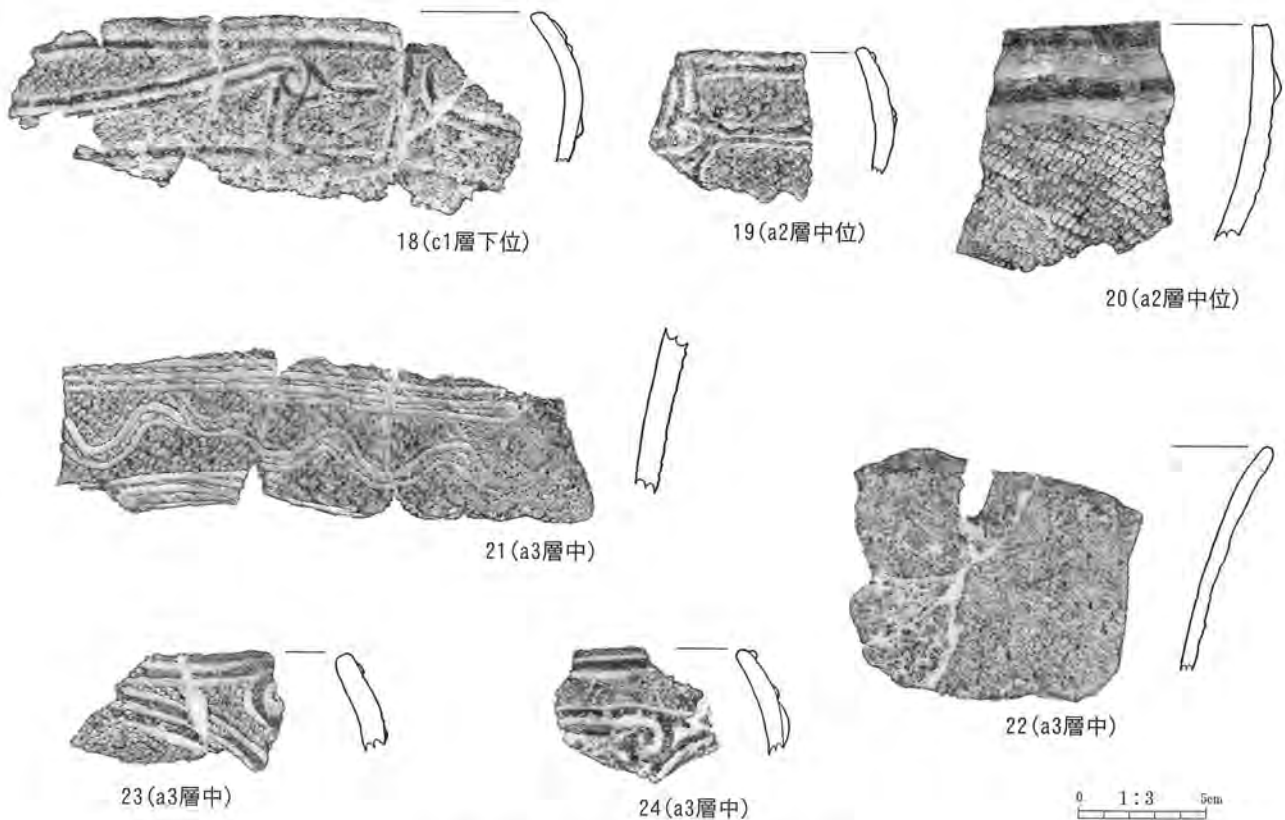
〈検出状況〉A区東側、IV層面で円形の掘り込み跡を確認した。

〈規模・形態〉円形のものと考えられる。SI20号はSI14号と重複し、SI14号より古いものと推定される。東西幅は3.92mある。覆土は2層に細別される。柱穴状の掘り込みが5基確認された。〈炉跡〉石囲炉である。床面より南側で確認された。〈出土遺物〉南側a3層中から深鉢の口縁部片と胴部片が出土した。NO. 25とNO. 26は同一個体である。大木8b式に相当する。

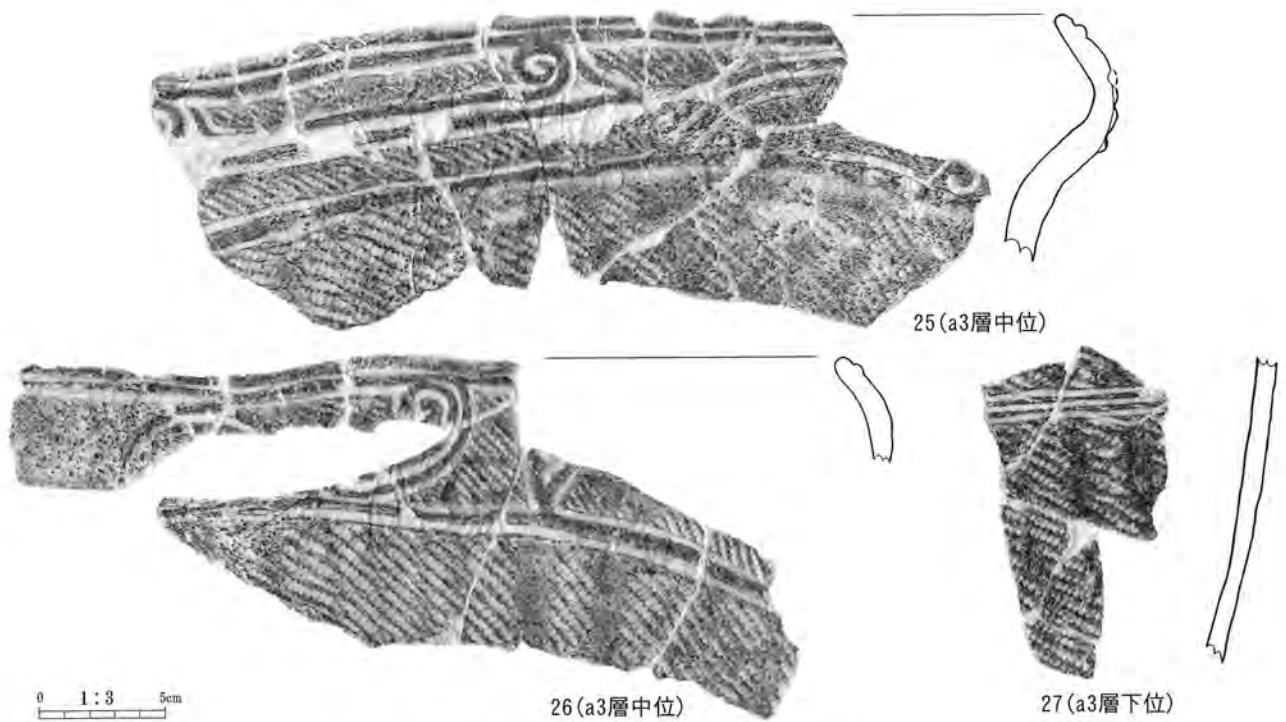
〈時期・時代〉縄文時代中期中頃のものと考えられる。



第16図 SI20号炉跡平面図・土層断面図



第17図 SI14号竖穴住居跡出土遺物

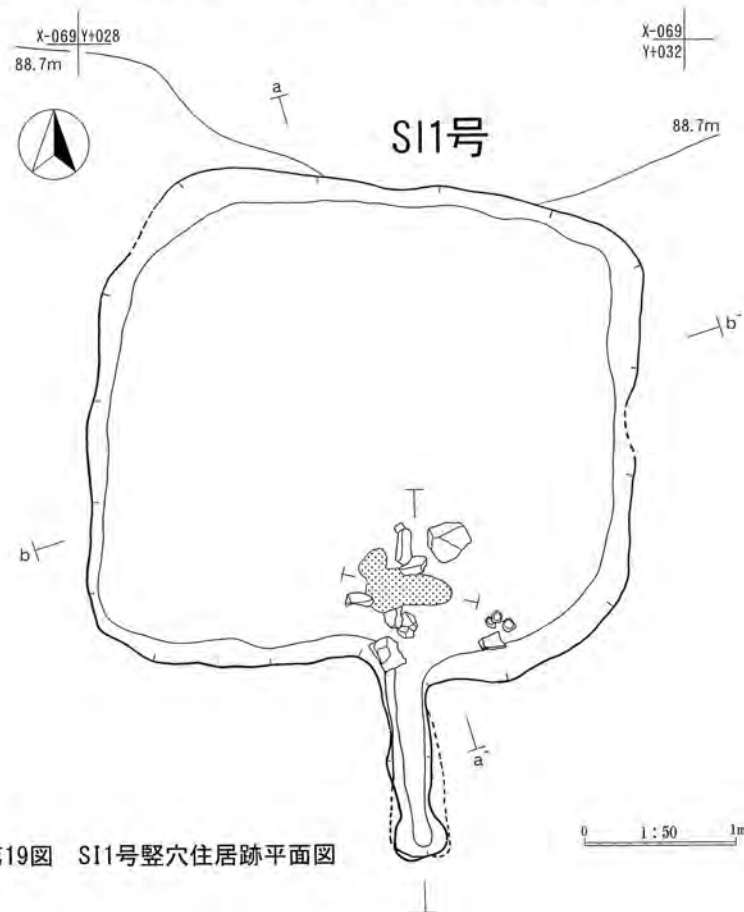


第18図 SI20号竪穴住居跡出土遺物

SI1号竪穴住居跡(第19~21図)

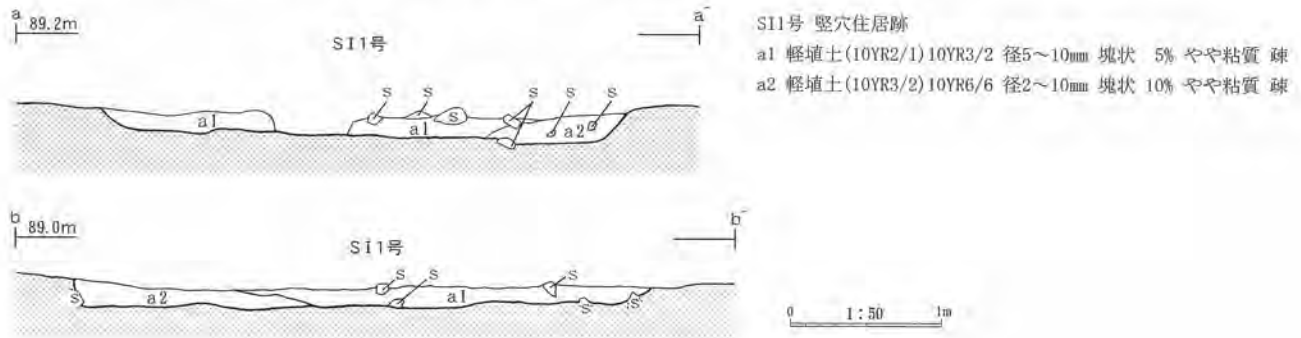
〈検出状況〉A区、IV層面で方形状の掘り込み跡を確認した。

〈規模・形態〉東西3.56m、南北3.29m、深さ0.23mの隅丸方形である。他の遺構との重複はない。覆土は2層に細別され、自然堆積と考えられる。柱穴は確認されなかった。

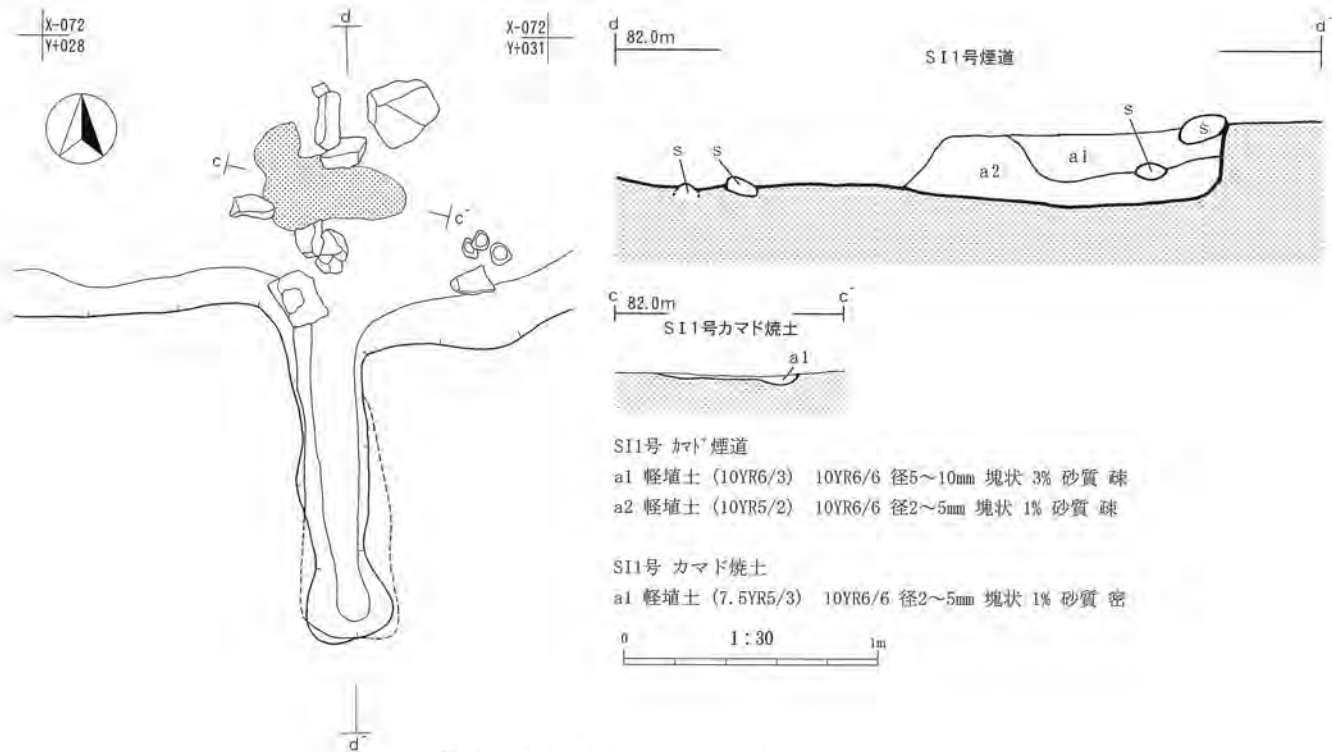


第19図 SI1号竪穴住居跡平面図

〈カマド〉南壁の中央で確認された。カマドは消失しており、焚口と想定される地点が変色していた。この周辺にこぶし大の礫や自然石が散乱したような状態となっていた。煙道は、遺構の検出時から確認できていた。〈出土遺物〉a1層上位～中位から縄文土器が出土した。〈時期・時代〉遺構の形状から、周辺で確認された遺構と同じく9世紀後半頃と考えられる。



第20図 S11号堅穴住居跡平面図・土層断面図

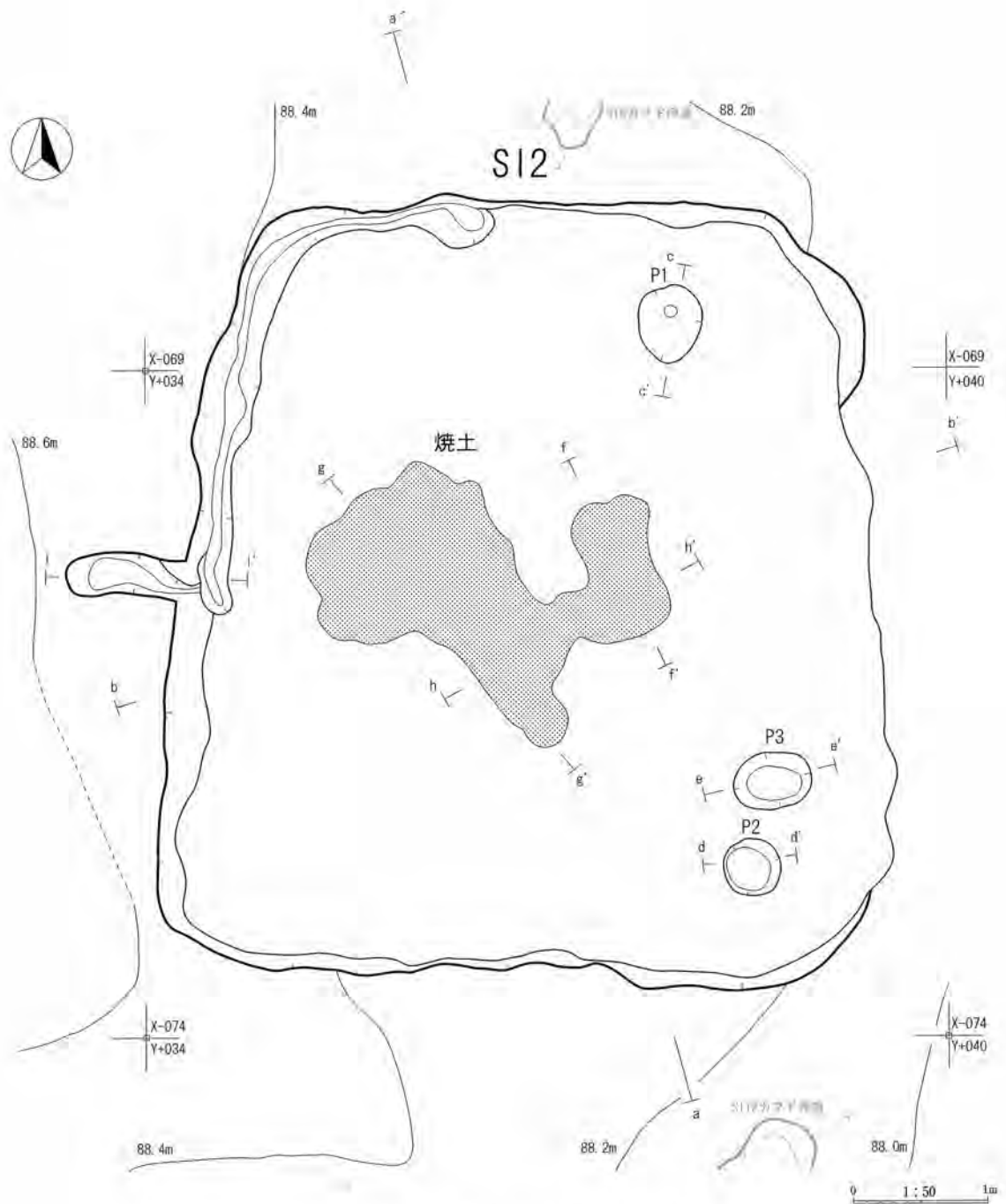


第21図 S11号カマド平面図・土層断面図

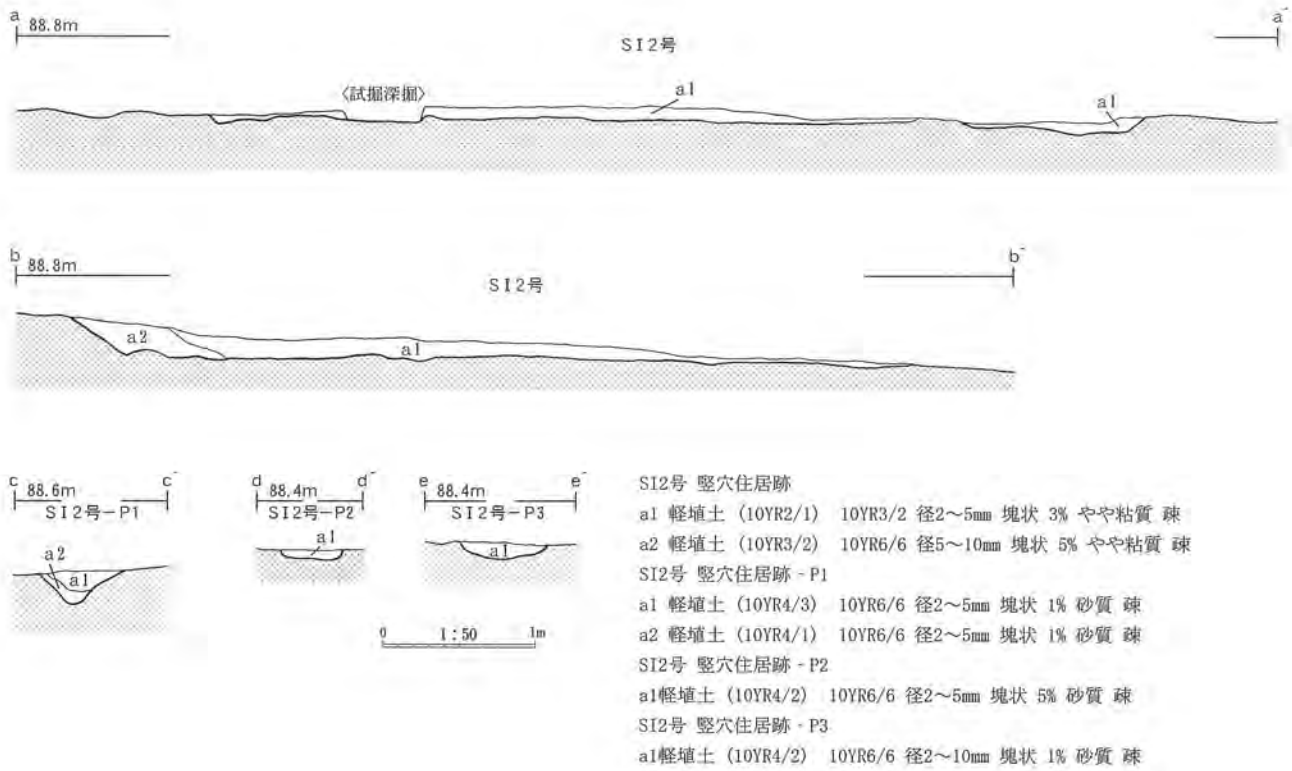
S12号堅穴住居跡(第22~26図)

〈検出状況〉A区、IV層面で方形状の掘り込み跡を確認した。

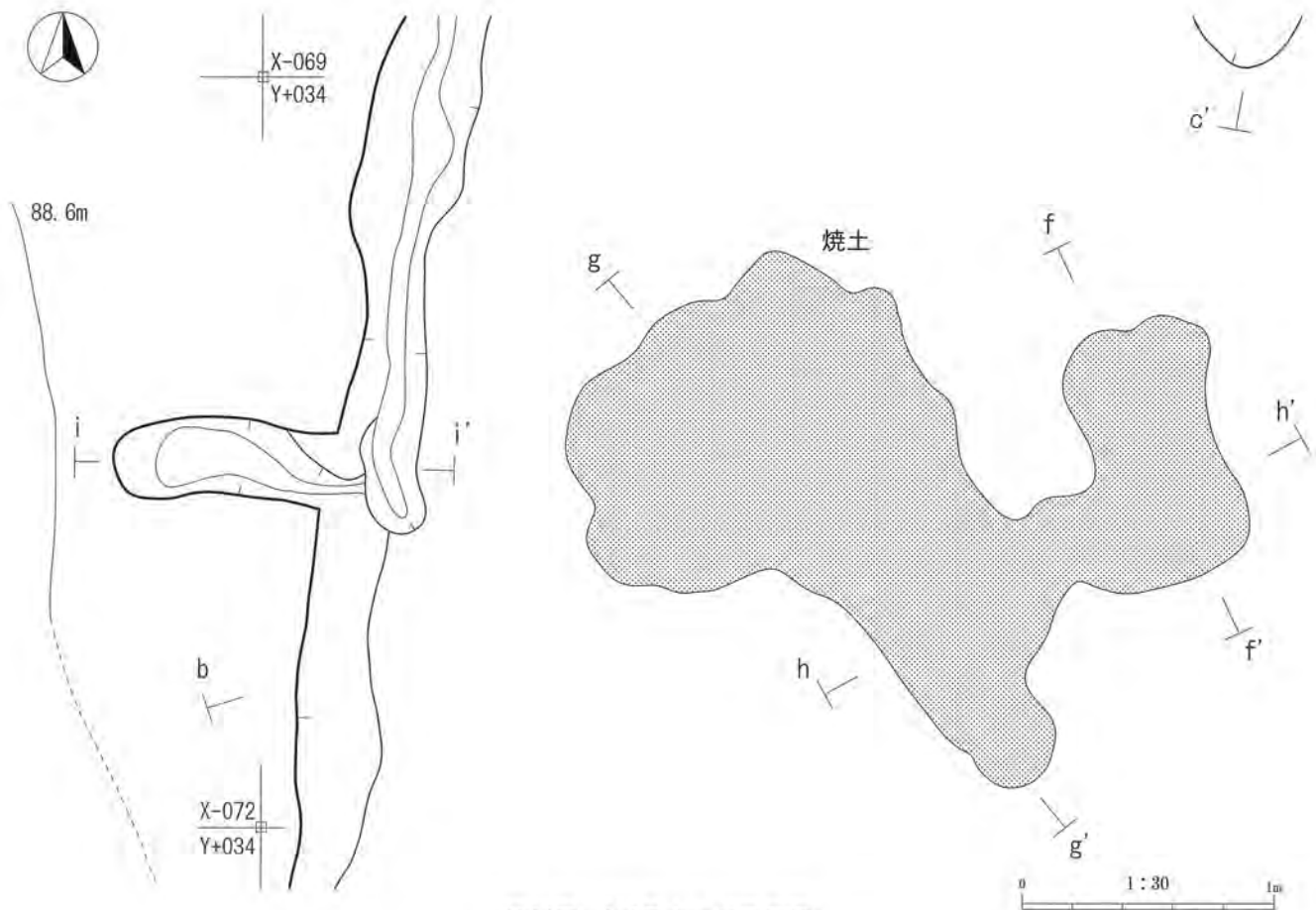
〈規模・形態〉東西5.53m、南北5.97m、深さ0.30mの隅丸方形である。他の遺構との重複はない。削平を受けており、確認された掘り込みは浅い。覆土は2層に細別される。遺構の東側で柱穴状の掘り込みが確認されている。〈カマド〉西壁の中央で確認された。カマドは消失している。煙道部が残っているだけである。床面中央で被熱により変色した部分を確認された。〈出土遺物〉南側a1層中から甕の口縁部片が1点出土した。内外面とも摩滅している。〈時期・時代〉9世紀後半頃のものと考えられる。



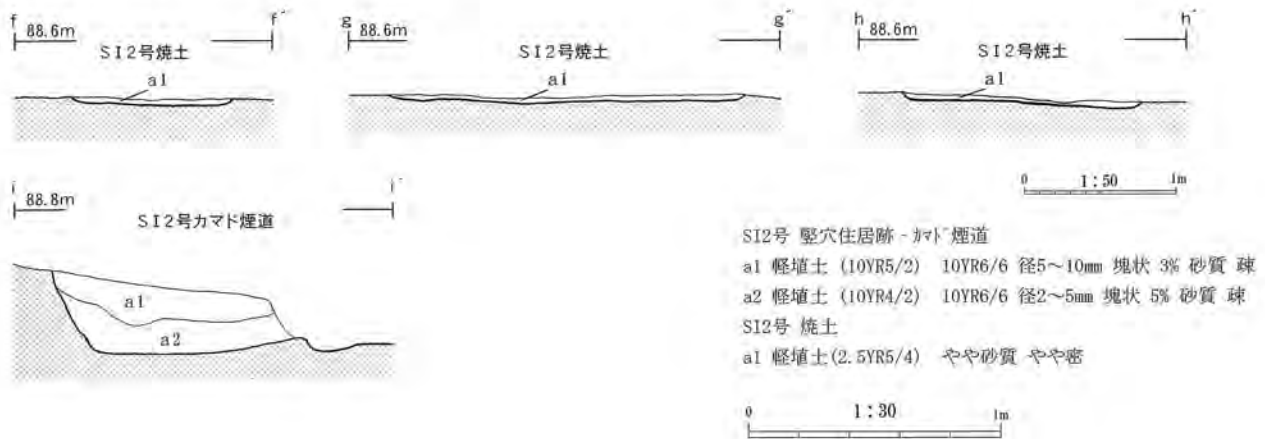
第22図 S12号竪穴住居跡平面図



第23図 SI2号竪穴住居跡土層断面図



第24図 SI2号カマド平面図



第25図 S12号カマド土層断面図

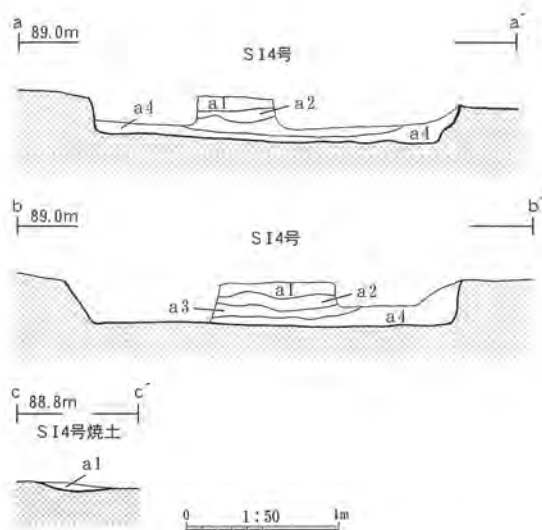
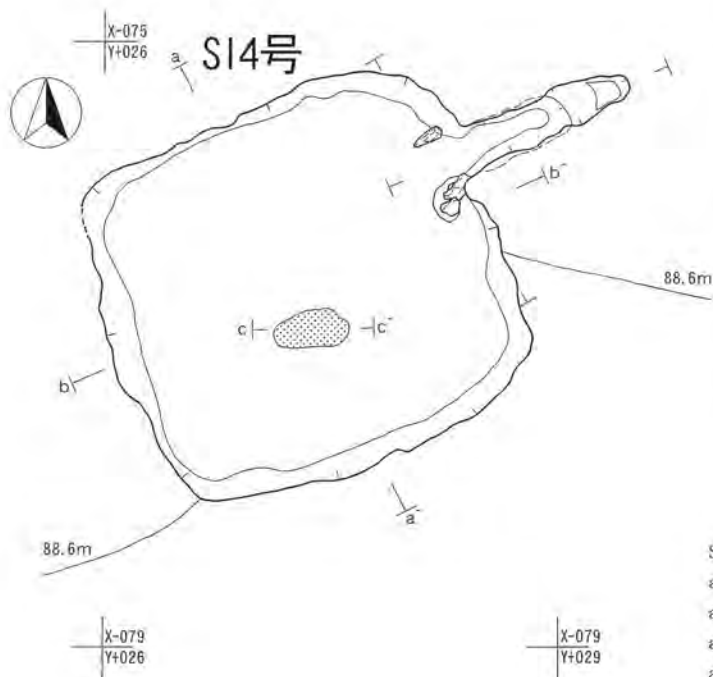


第26図 S12号竪穴住居跡出土遺物

S14号竪穴住居跡(第27~29図)

〈検出状況〉B区、IV層面で方形の掘り込み跡を確認した。

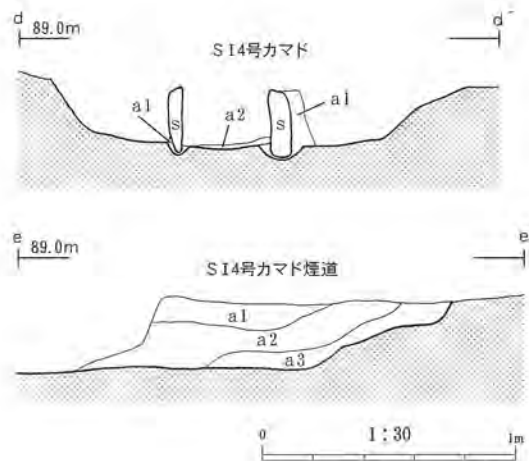
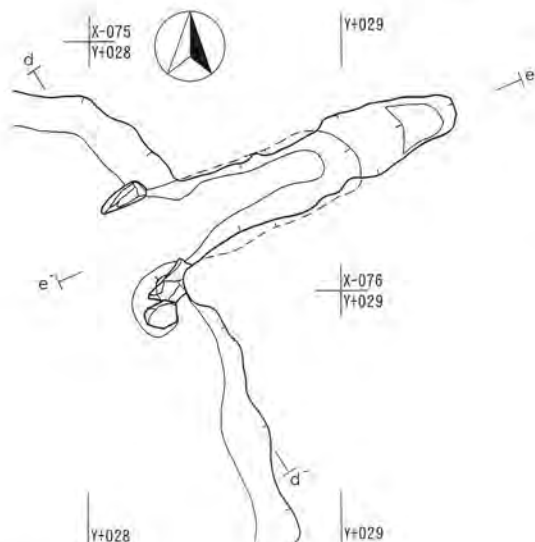
〈規模・形態〉東西2.67m、南北2.48m、深さ0.30mの隅丸方形である。他の遺構との重複はない。覆土は4層に細別される。柱穴跡は確認されなかった。〈カマド〉東壁のやや北側で確認された。カマドは袖の芯材とした礫だけが残っていた。煙道部は、遺構検出時には掘り込みのプランが確認できていた。床面中央付近で被熱により変色した部分を確認された。〈出土遺物〉南側a4層中から甕の底部片が出土した。摩滅しており、詳しくは観察できない。〈時期・時代〉9世紀後半頃のものと考えられる。



SI4号 竪穴住居跡

- a1 軽埴土 (10YR2/1) 10YR3/2 径2~5mm 塊状 5% やや粘質 やや疎
 - a2 軽埴土 (10YR3/2) 10YR3/1 径2~10mm 塊状 3% やや粘質 やや疎
 - a3 軽埴土 (10YR3/1) 10YR3/2 径5~10mm 塊状 5% やや粘質 疎
 - a4 軽埴土 (10YR3/2) 10YR6/6 径2~5mm 塊状 3% やや粘質 疎
- SI4号 焼土
- a1 軽埴土 (2.5YR5/3) 砂質 やや密

第27図 SI4号竪穴住居跡平面図・土層断面図



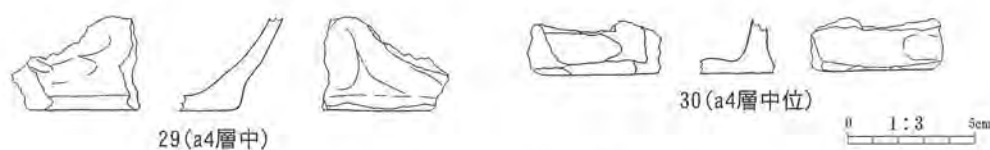
SI4号 カマド

- a1 軽埴土 (10YR4/2) 10YR5/3 径2~5mm 塊状 1% 砂質 疎
- a2 軽埴土 (10YR4/2) 10YR5/3 径2~10mm 塊状 5% 砂質 疎

SI4号 カマド煙道

- a1 軽埴土 (10YR5/3) 10YR4/2 径5~30mm 塊状 1% 砂質 疎
- a2 軽埴土 (10YR4/2) 10YR5/3 径2~10mm 塊状 5% 砂質 疎
- a3 軽埴土 (10YR5/3) 10YR6/6 径2~10mm 塊状 5% 砂質 疎

第28図 SI4号カマド平面図・土層断面図



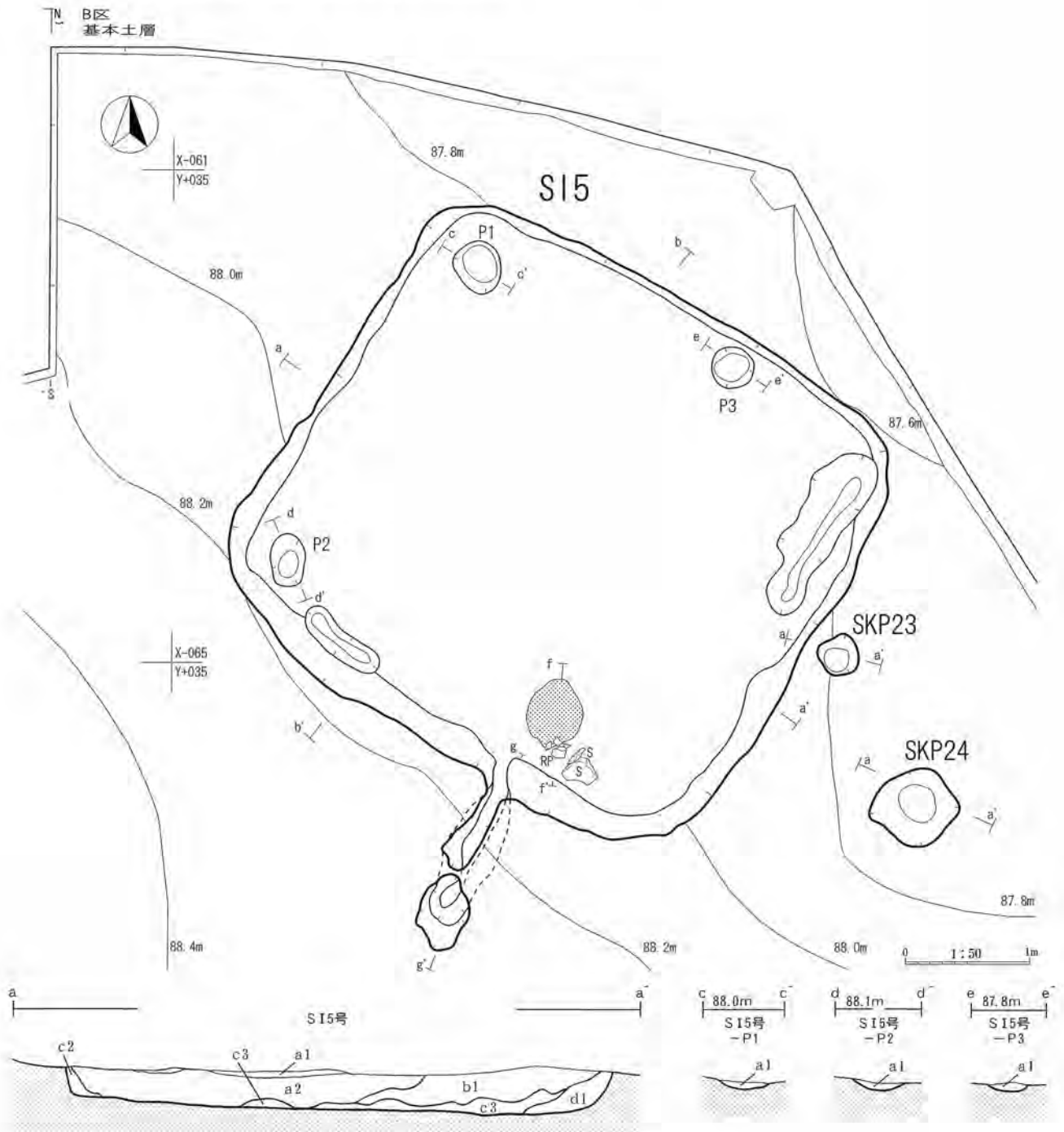
第29図 SI4号竪穴住居跡出土遺物

S15号竖穴住居跡(第30~33図)

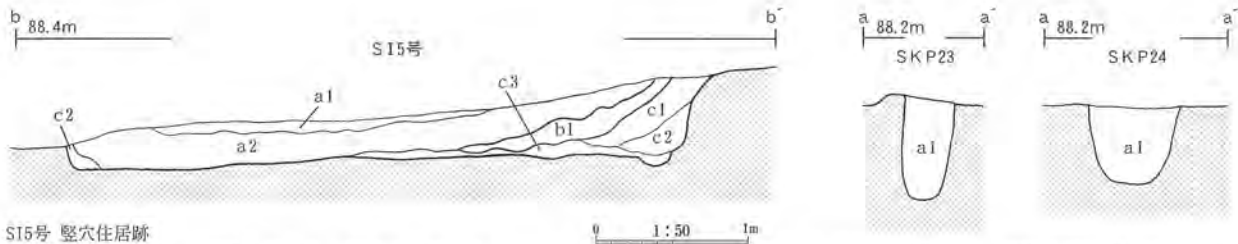
〈検出状況〉B区、IV層面から方形の掘り込み跡を確認した。

〈規模・形態〉東西4.43m、南北4.14m、深さ0.32mの隅丸方形である。他の遺構との重複はない。覆土は3層に大別される。a層は自然堆積層、b層はSI2号の掘削土層、c層、d層は自然堆積層と考えられる。覆土の堆積状況から、SI5号は、南側にあるSI2号より古いものと考えられる。〈カマド〉南西壁の南側で確認された。焚口と想定される場所は被熱により変色しており、カマド袖となるところからは礫と甕の口縁部片が確認された。煙道部は、削り貫いて築かれている。〈出土遺物〉カマド袖付近から甕の口縁部片が出土した。摩滅しており、詳しい観察はできなかった。

〈時期・時代〉9世紀後半頃のものと考えられる。



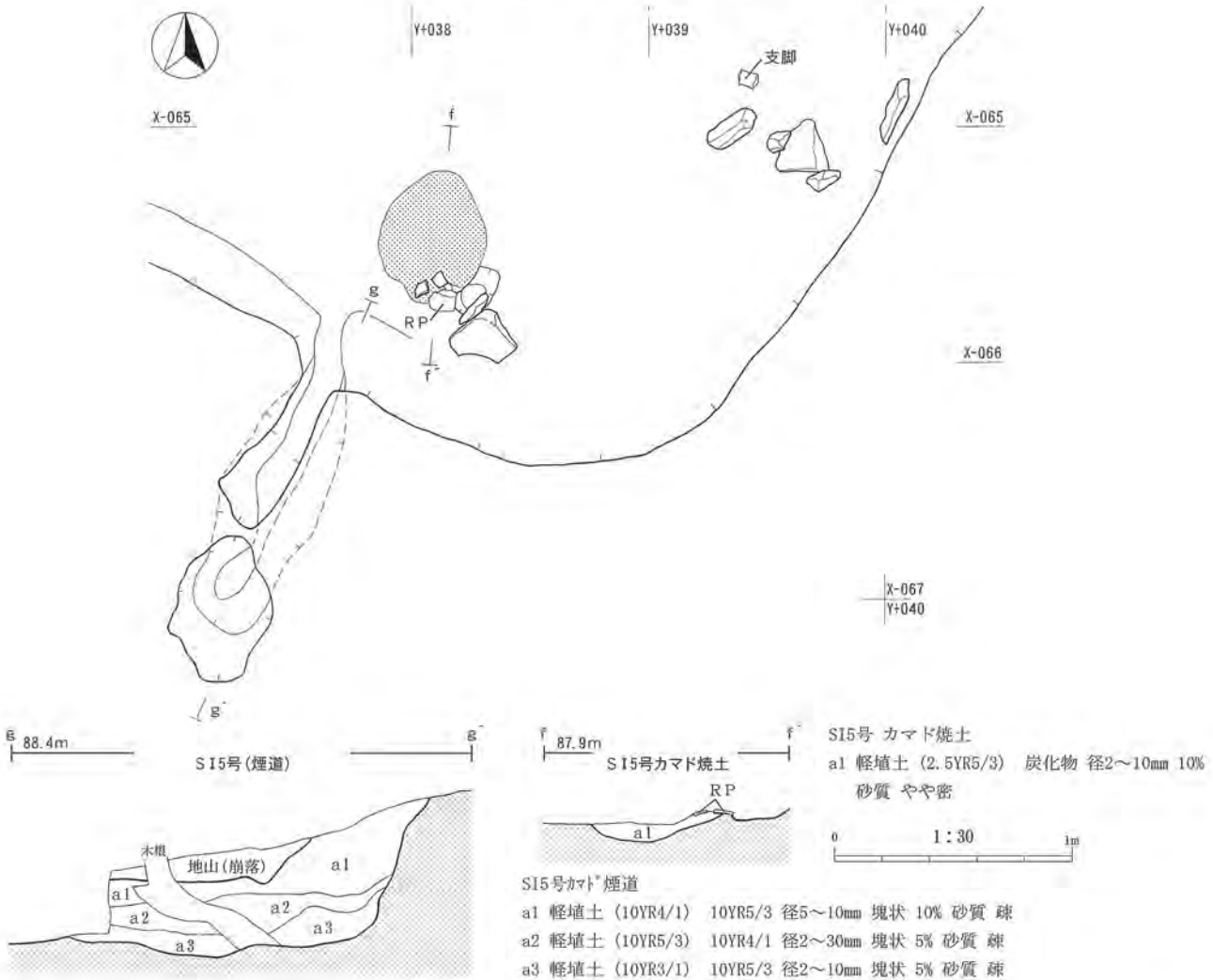
第30図 S15号竖穴住居跡平面図・土層断面図(1)



SI5号 竪穴住居跡

- | | |
|---|--|
| a1 軽埴土 (10YR3/1) 10YR6/6 径2~5mm 塊状 1% 砂質 礫 | P1 a1 軽埴土 (10YR3/2) 10YR6/6 径2~5mm 塊状 3% 砂質 礫 |
| a2 軽埴土 (10YR3/2) 10YR4/3 径5~30mm 塊状 10% 砂質 礫 | P2 a1 軽埴土 (10YR3/2) 10YR6/6 径2~10mm 塊状 1% 砂質 礫 |
| b1 軽埴土 (10YR5/4) 10YR3/2 径10~50mm 塊状 20% やや砂質 やや密 (SI2号からの廃土) | P3 a1 軽埴土 (10YR3/2) 10YR6/6 径2~5mm 塊状 3% 砂質 礫 |
| c1 軽埴土 (10YR4/1) 10YR4/3 径2~10mm 塊状 5% 砂質 礫 | SKP23 |
| c2 軽埴土 (10YR4/3) 10YR6/6 径2~10mm 塊状 3% 砂質 礫 | a1 軽埴土 (10YR4/1) 10YR5/3 径2~5mm 塊状 3% 砂質 礫 |
| c3 軽埴土 (10YR2/1) 10YR6/6 径2~5mm 塊状 5% 砂質 礫 | SKP24 |
| d1 軽埴土 (10YR4/1) 10YR6/6 径2~5mm 塊状 10% 炭化物 径5~10mm 10% 砂質 やや密 | a1 軽埴土 (10YR4/1) 10YR5/3 径2mm 塊状 1% 砂質 礫 |

第31図 SI5号竪穴住居跡土層断面図(2)



第32図 SI5号カマド平面図・土層断面図



第33図 SI5号竪穴住居跡出土遺物

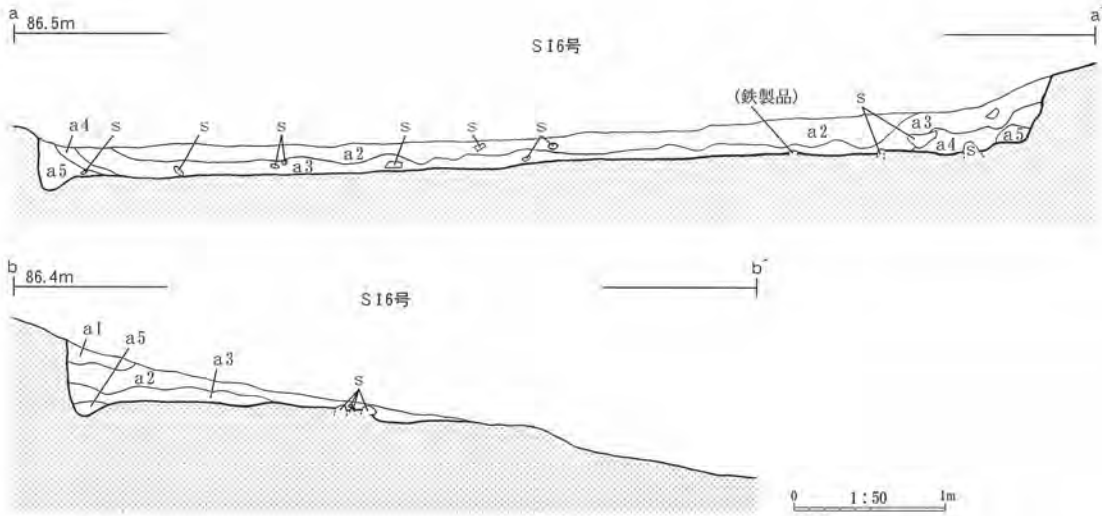
S16号竖穴住居跡(第34~38図)

〈検出状況〉B区東側の斜面部、IV層面から方形の掘り込み跡を確認した。

〈規模・形態〉南東側は消失している。北東-南西6.65m、深さ0.64mである。隅丸方形と想定される。他の遺構との重複はない。覆土は6層に細別され、自然堆積と考えられる。〈カマド〉北東壁に築かれている。カマドは残っておらず、焚口となるところが被熱により変色している。煙道は割り貫いて築かれている。カマド袖となるところからは礫と甕の口縁部片が出土した。〈出土遺物〉南側a3層中から甕の口縁部片が出土している。また、床面西側から鉄製品(重量469.6g)が出土している。小刀状を呈する。〈時期・時代〉9世紀後半頃のものと考えられる。



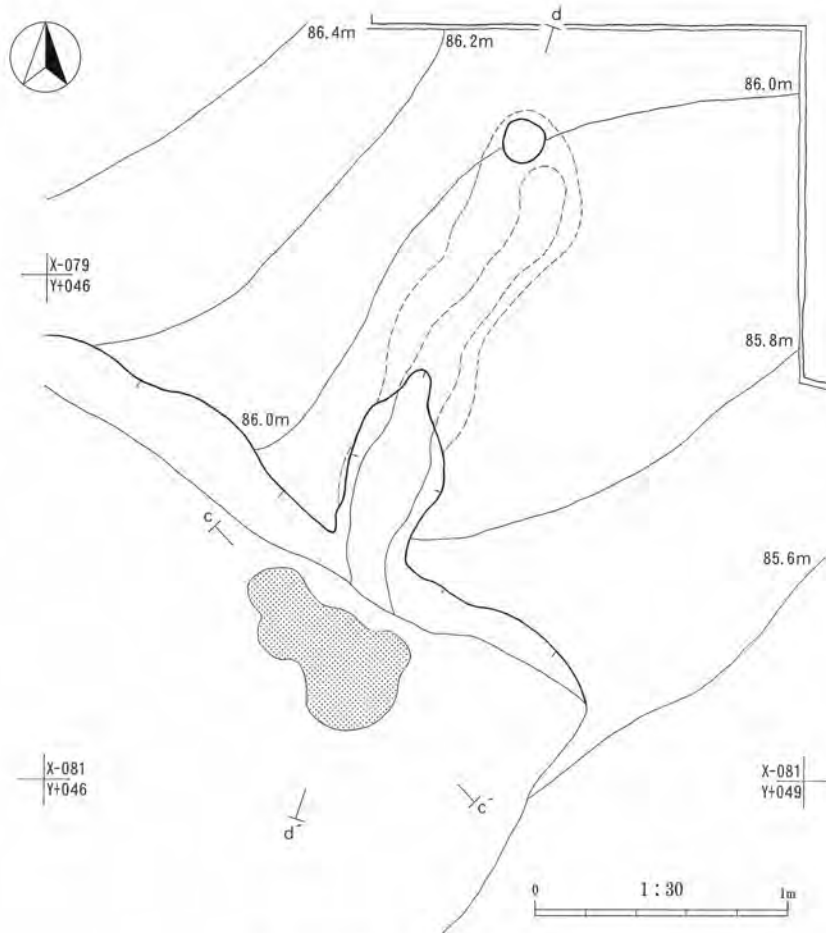
第34図 S16号竖穴住居跡平面図



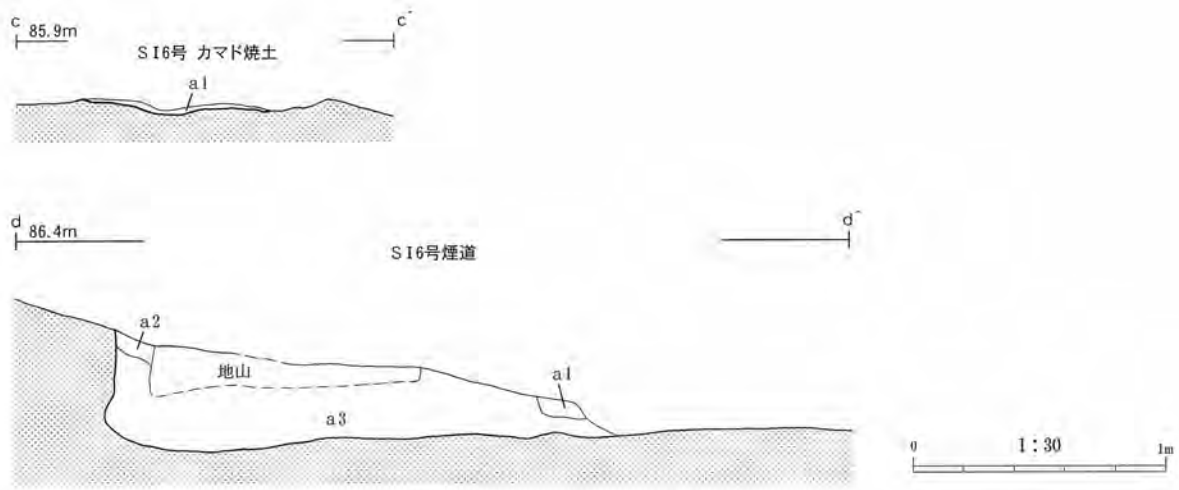
S16号 竪穴住居跡

- a1 軽埴土 (10YR6/3) 10YR6/6 径10~30mm 塊状 20% 砂質 礫
- a2 軽埴土 (10YR6/3) 10YR6/6 径5~50mm 塊状 10% 砂質 礫
- a3 軽埴土 (10YR4/1) 10YR6/6 径10~50mm 塊状 5% 砂質 礫
- a4 軽埴土 (10YR6/6) 10YR4/1 径5~30mm 塊状 10% 砂質 礫
- a5 軽埴土 (10YR6/6) 10YR6/6 径2~10mm 塊状 5% 砂質 礫

第35図 S16号竪穴住居跡土層断面図



第36図 S16号カマド平面图



S16号 カマド 焼土

a1 軽埴土 (5YR5/2) 10YR6/6 径2~5mm 塊状 1% 砂質 やや疎

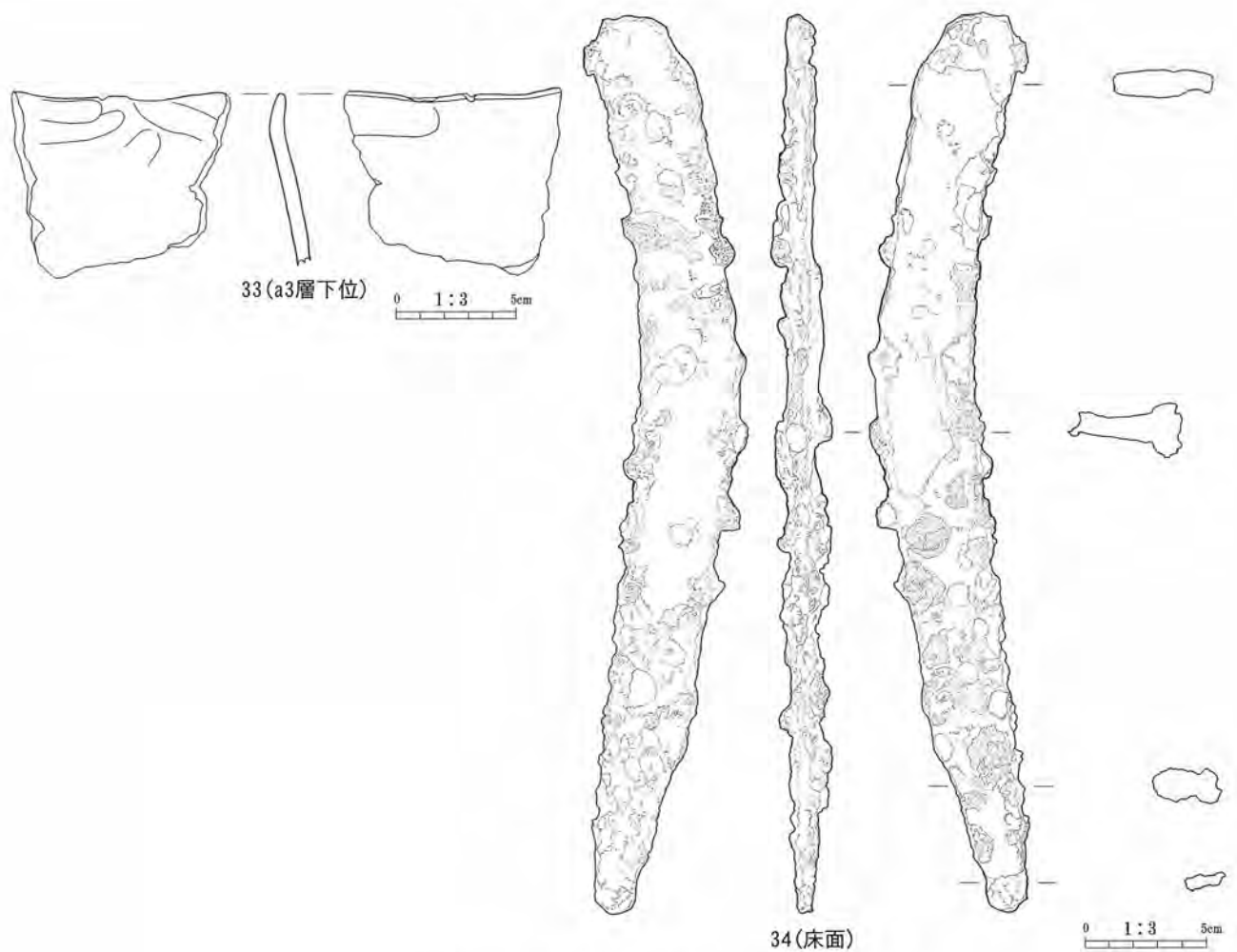
S16号 煙道

a1 軽埴土 (10YR6/5) 10YR4/2 径2~5mm 塊状 1% 砂質 疎

a2 軽埴土 (10YR6/6) 10YR4/2 径2~10mm 塊状 1% 砂質 疎

a3 軽埴土 (10YR4/2) 10YR6/6 径2~10mm 塊状 5% 砂質 疎

第37図 S16号カマド土層断面図

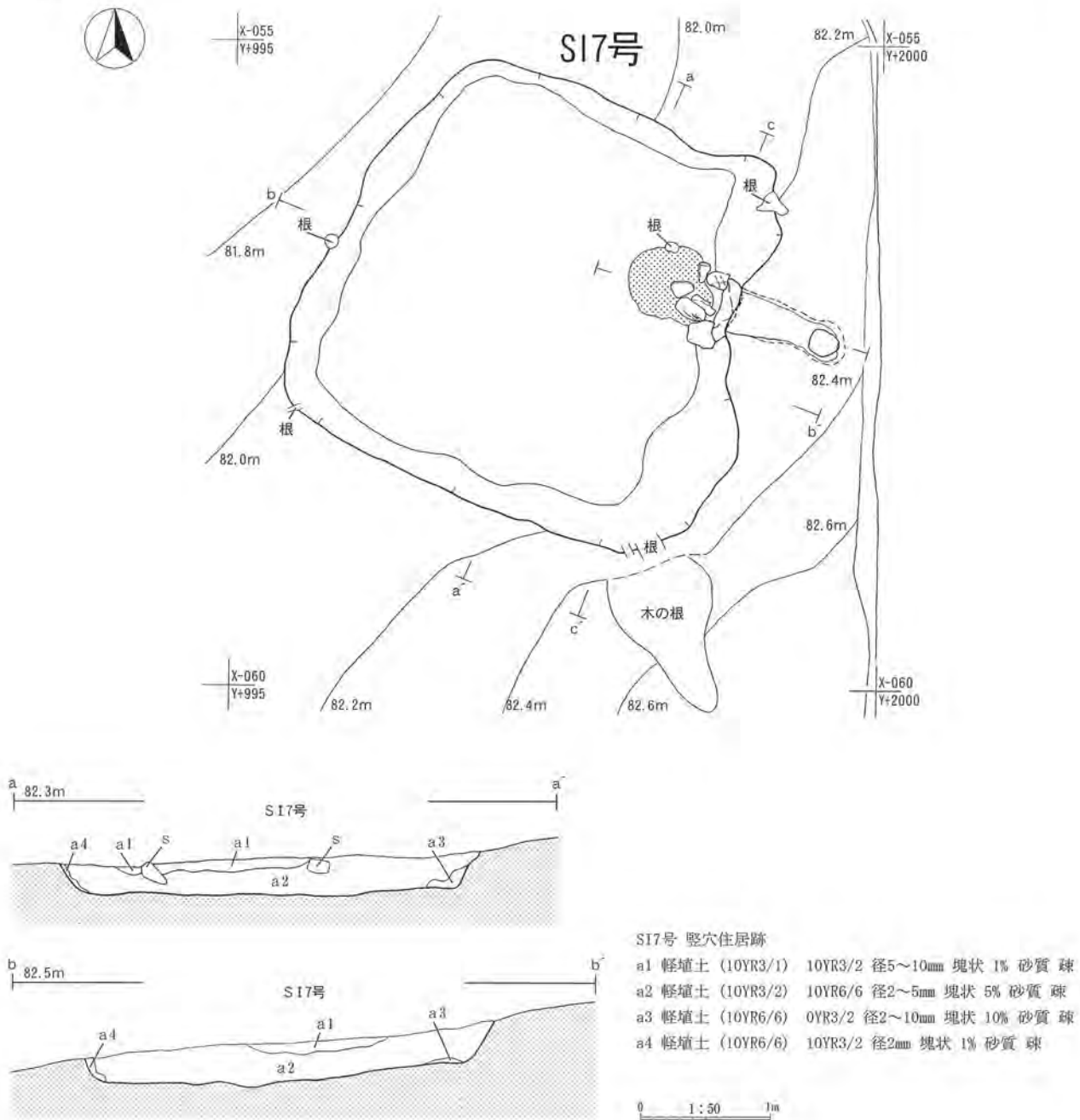


第38図 S16号竪穴住居跡出土遺物

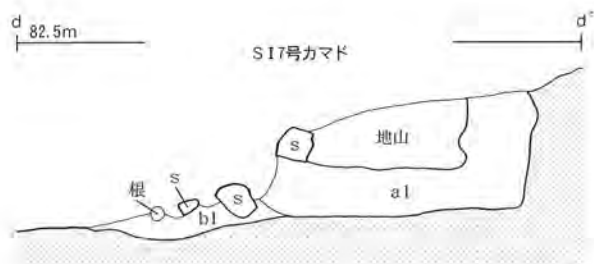
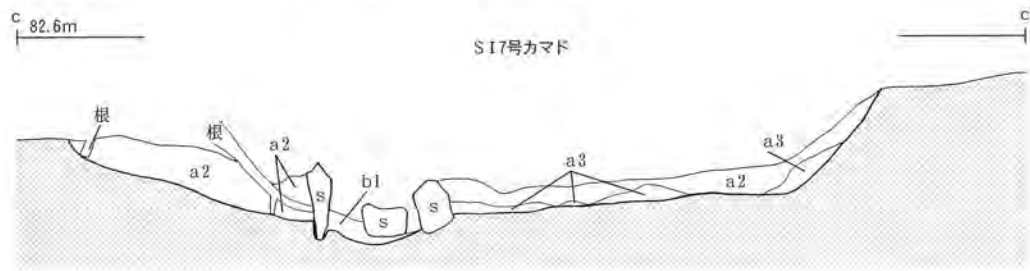
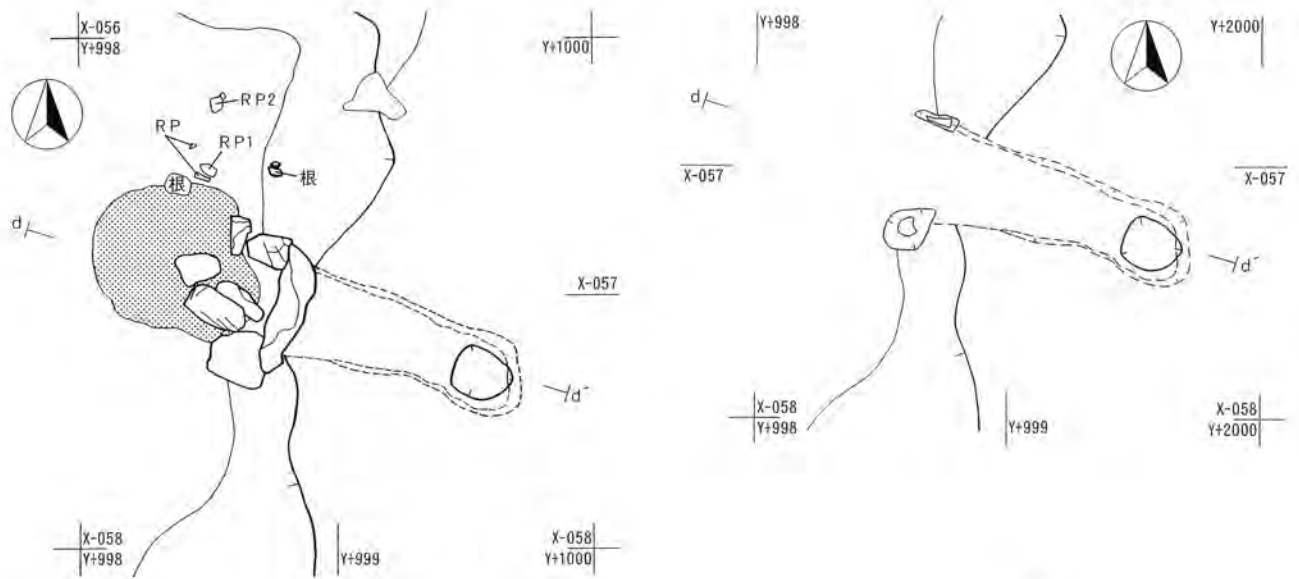
SI7号竖穴住居跡(第39~41図)

〈検出状況〉A区東側、IV層面から方形の掘り込み跡を確認した。

〈規模・形態〉東西3.59m、南北3.26m、深さ0.52mである。隅丸方形である。SI7号は、SI14号、20号と重複し、SI7号が新しい。覆土は4層に細別され、自然堆積と考えられる。〈カマド〉東壁やや北側の位置に築かれている。カマドの芯材とした礫が残る。焚口としたところが被熱により変色している。カマドの袖となるところからは、礫と甕の口縁部片が確認された。煙道は、削り貫いて築かれている。〈出土遺物〉a2層中位から須恵器の甕の底部片(No. 40)が出土している。また、土師坏片(No. 35)と甕の口縁部~底部片(No. 36~39)が出土している。〈時期・時代〉9世紀後半頃のものと考えられる。

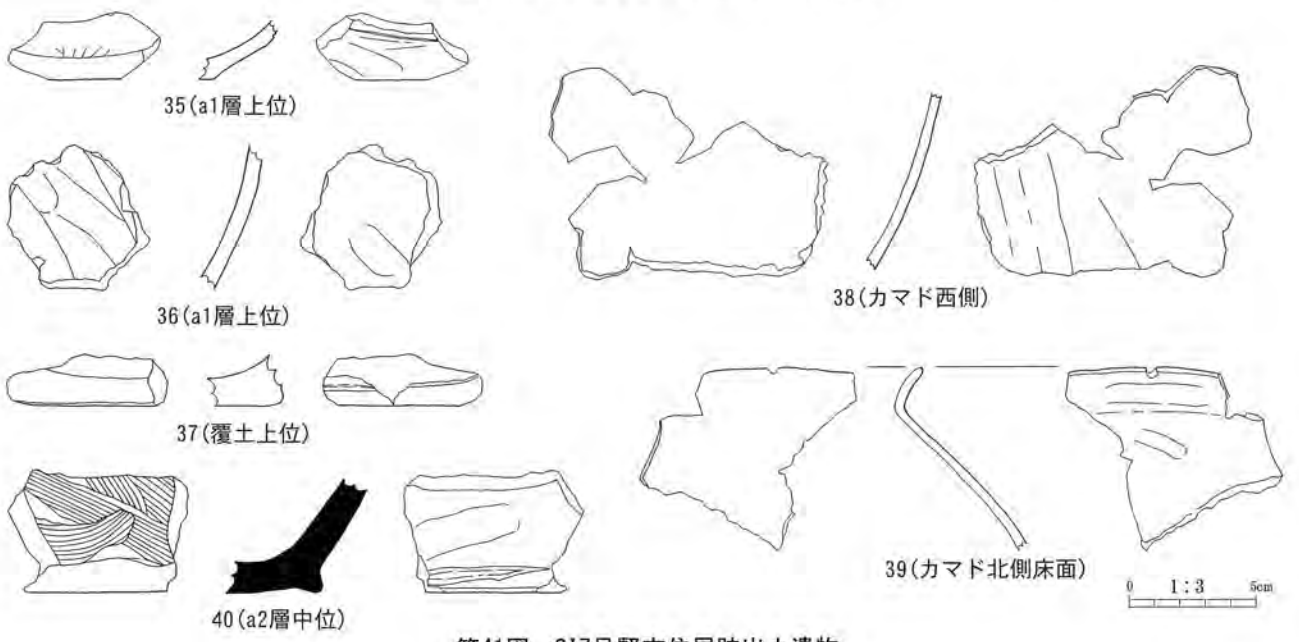


第39図 SI7号竖穴住居跡平面図・土層断面図



- S17号カマド'
- a2 軽埴土 (10YR3/2) 10YR6/6 径2~5mm 塊状 5% 砂質 礫
 - a3 軽埴土 (10YR6/6) 0YR3/2 径2~10mm 塊状 10% 砂質 礫
 - b1 軽埴土 (2.5YR5/3) やや砂質 やや礫 (被熱痕跡層)
- S17号カマド煙道
- a1 軽埴土 (10YR2/1) 10YR6/6 径2~30mm 塊状 10% 砂質 礫
 - b1 軽埴土 (2.5YR5/3) やや砂質 やや礫 (被熱痕跡層)

第40図 S17号カマド平面図・土層断面図



第41図 S17号竪穴住居跡出土遺物

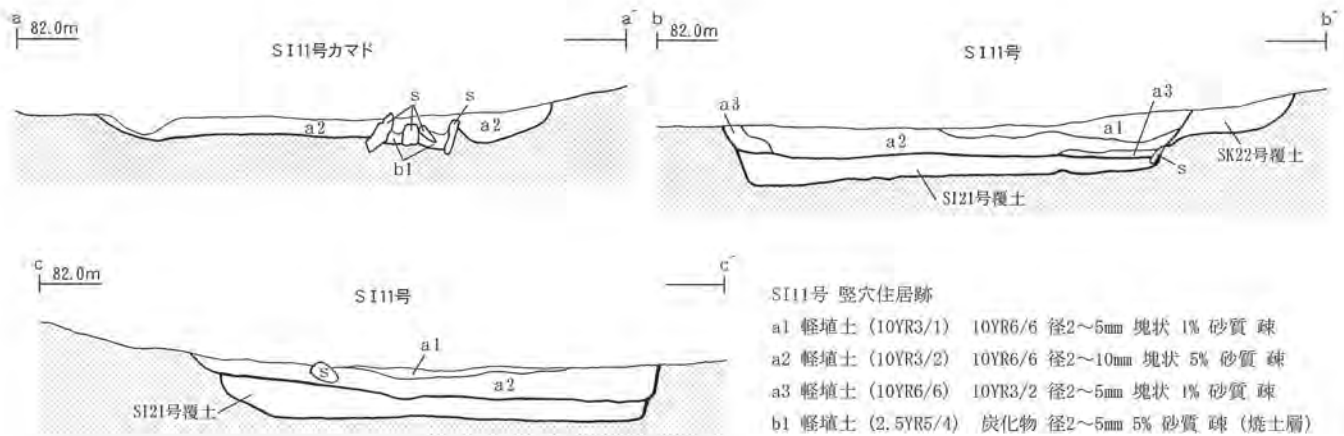
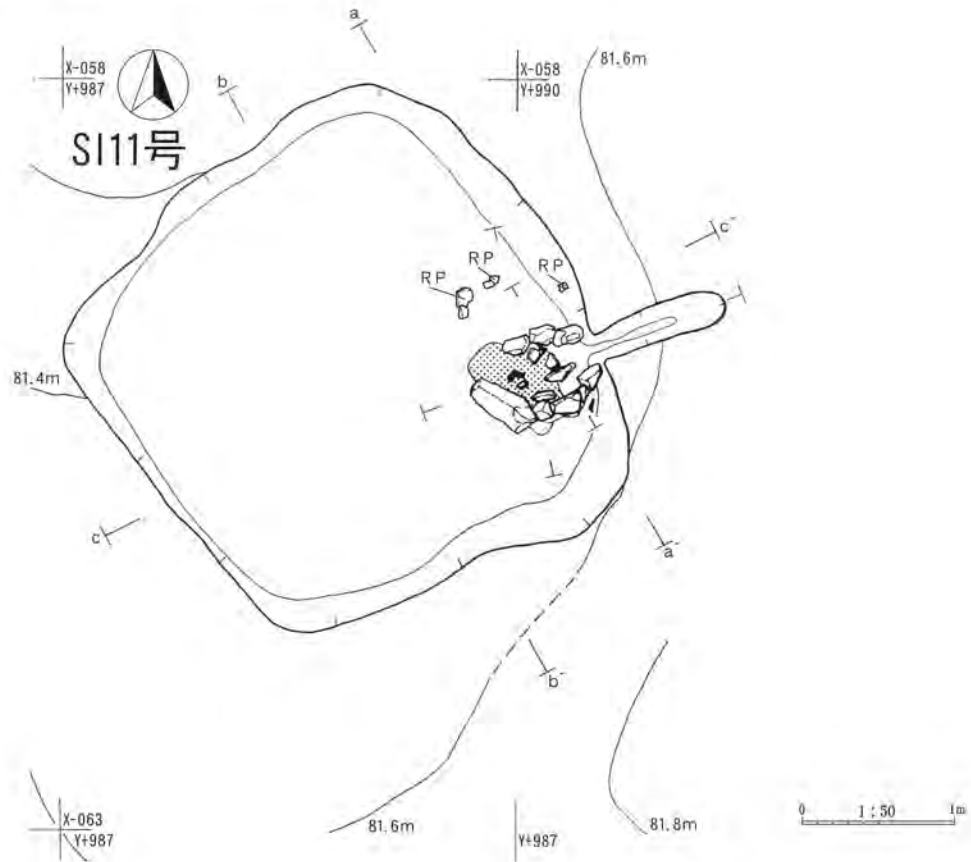
SI11号竪穴住居跡(第42~44図)

〈検出状況〉A区中央付近、IV層面から方形の掘り込み跡を確認した。

〈規模・形態〉東西3.11m、南北3.35m、深さ0.34mである。隅丸方形である。SI21号とSK22号と重複し、SI11号はSI21号とSK22号より新しい。覆土は3層に細別され、自然堆積と考えられる。

〈カマド〉北東壁やや南側の位置に築かれている。カマドの芯材とした礫が残る。南側でわずかに基底が確認された。焚口としたところが被熱により変色している。煙道は、遺構検出時に確認されていた。〈出土遺物〉カマド北側から甕の口縁~胴部片と底部片が出土している。

〈時期・時代〉9世紀後半頃のものと考えられる。

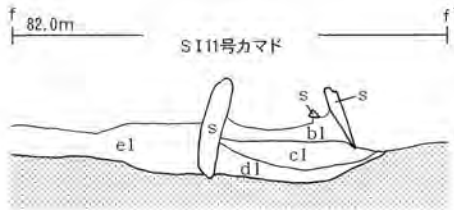
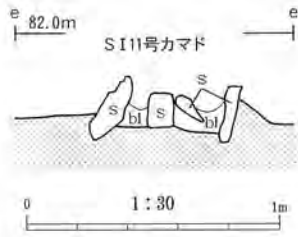
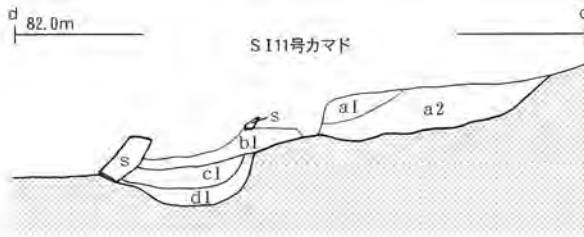
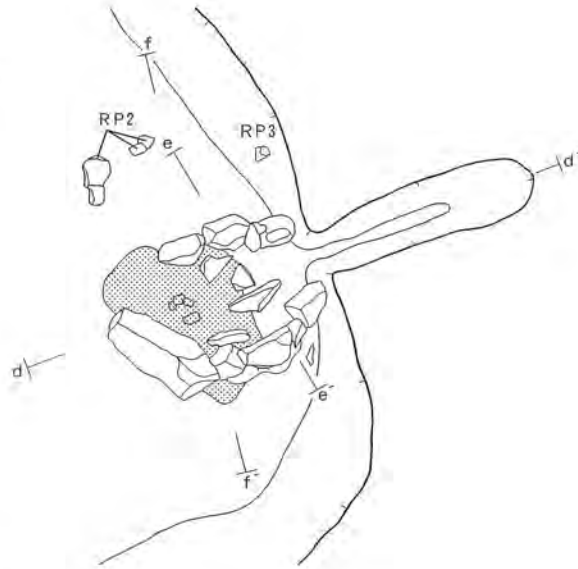


第42図 SI11号竪穴住居跡平面図・土層断面図



X-059
Y+989

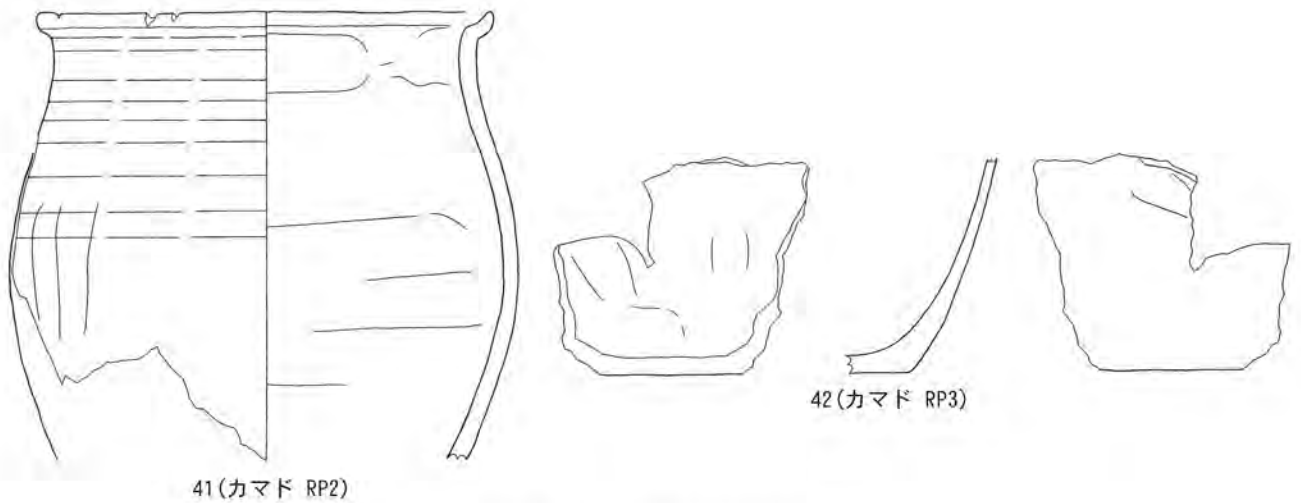
X-061
Y+989



SI11号 カマド

- a1 軽埴土 (10YR5/2) 10YR5/4 径2~5mm 塊状 3% 砂質 礫
- a2 軽埴土 (10YR5/2) 10YR6/4 径5~30mm 塊状 1% やや砂質 礫
- b1 軽埴土 (2.5YR5/4) 炭化物 径2~5mm 5% 砂質 礫 (焼土層)
- c1 軽埴土 (10YR4/1) 10YR5/4 径2~10mm 塊状 10% 砂質 やや礫 (カマド構築土)
- d1 軽埴土 (10YR4/1) 10YR5/4 径2~50mm 塊状 10% 砂質 礫 (カマド構築土)
- e1 軽埴土 (10YR6/3) 10YR5/1 径2~30mm 塊状 5% 砂質 やや礫 (貼床層)

第43図 SI11号カマド平面図・土層断面図



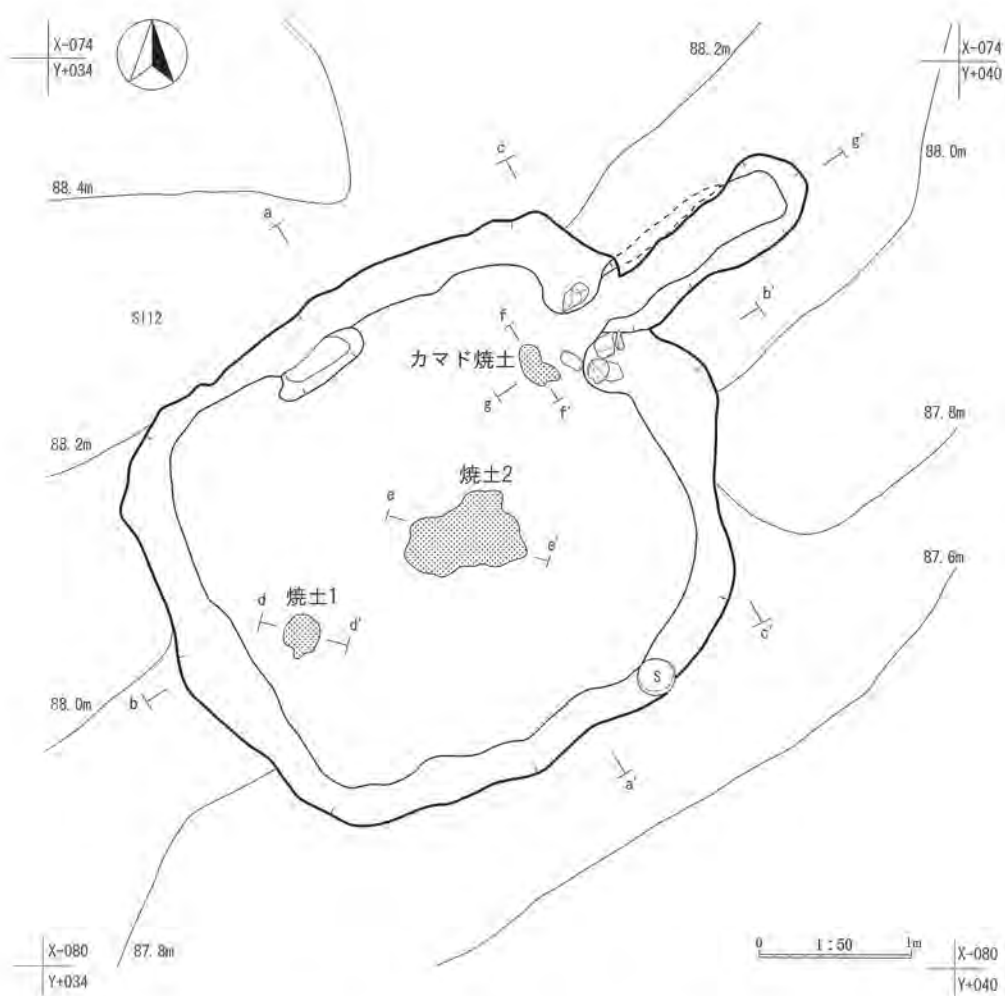
第44図 SI11号竪穴住居跡出土遺物

SI12号竖穴住居跡(第45～48図)

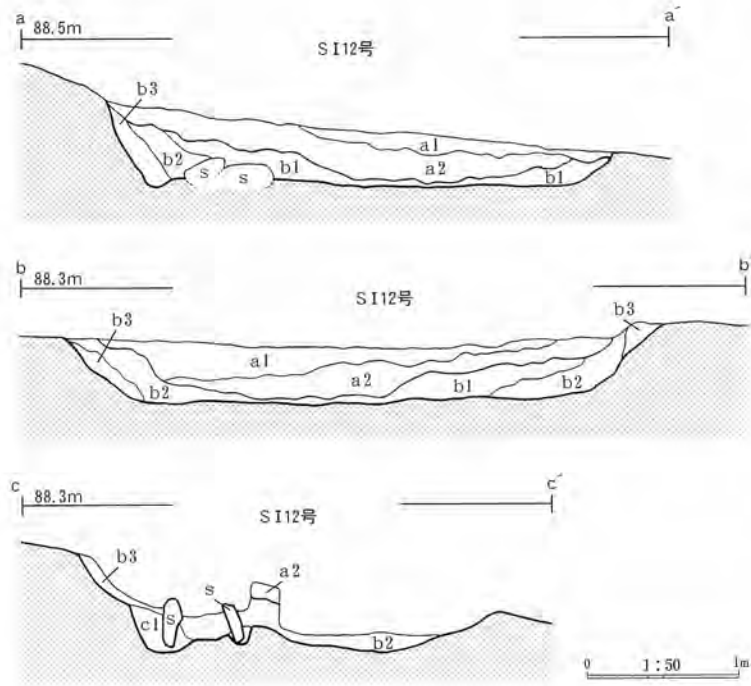
〈検出状況〉B区中央付近、IV層面で方形の掘り込み跡を確認した。

〈規模・形態〉東西3.98m、南北3.56m、深さ0.56mである。隅丸方形である。他の遺構との重複はない。覆土は2層に大別され、a層は、北側にあるSI2号の掘削土層であり、b層は自然堆積層と考えられる。覆土の観察から、SI12号は、SI2号より古いものと考えられる。〈カマド〉東壁や北側の位置に築かれている。カマドの芯材とした礫が残る。焚口としたところが被熱により変色している。煙道は、遺構検出時に確認されていた。カマド袖となるところからは甕の口縁部片が出土した。床面中央と西側で焼土遺構を確認した。掘り込まれてはいない。〈出土遺物〉剥片石器(a1層中)と磨石(覆土下位)が出土しているが、覆土と一緒に入り込んだものである。

〈時期・時代〉9世紀後半頃のものと考えられる。



第45図 SI12号竖穴住居跡平面図



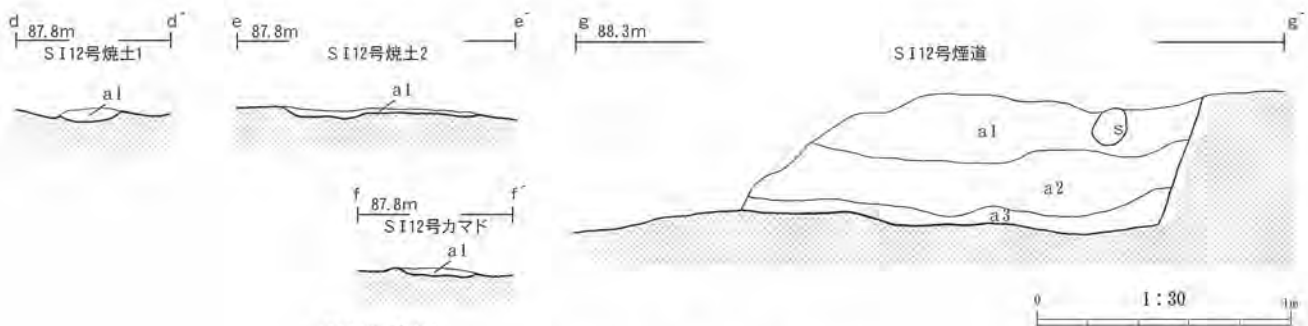
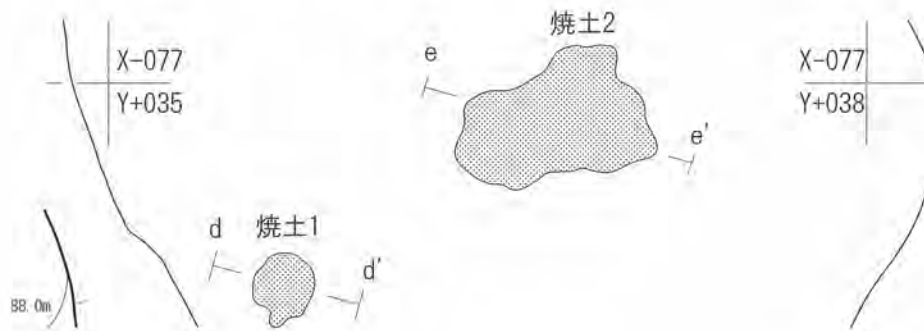
SI12号 竪穴住居跡

- a1 軽埴土 (10YR5/2) 10YR6/6 径2~5mm 塊状 3% 砂質 やや疎
- a2 軽埴土 (10YR5/3) 10YR6/6 径2~50mm 塊状 10% 砂質 やや疎
- b1 軽埴土 (10YR2/1) 10YR6/6 径2~10mm 塊状 5% 砂質 疎
- b2 軽埴土 (10YR5/2) 10YR6/6 径2~30mm 塊状 5% 砂質 疎
- b3 軽埴土 (10YR6/3) 10YR6/6 径2~10mm 塊状 1% 砂質 やや疎
- c1 軽埴土 (10YR4/3) 10YR5/2 径2~5mm 粒状 1% 砂質 疎

第46図 SI12号竪穴住居跡土層断面図



第47図 SI12号カマド平面図



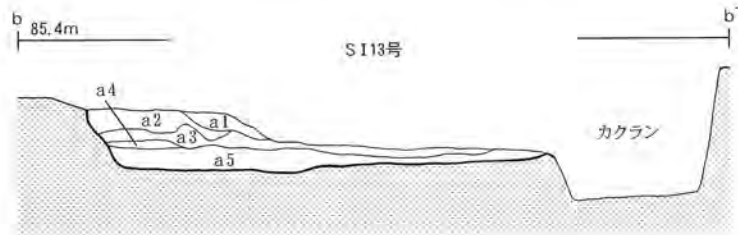
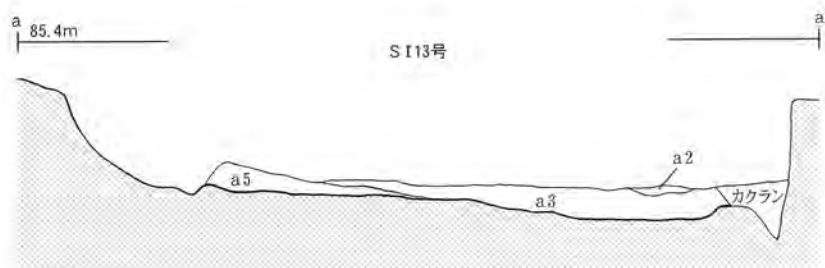
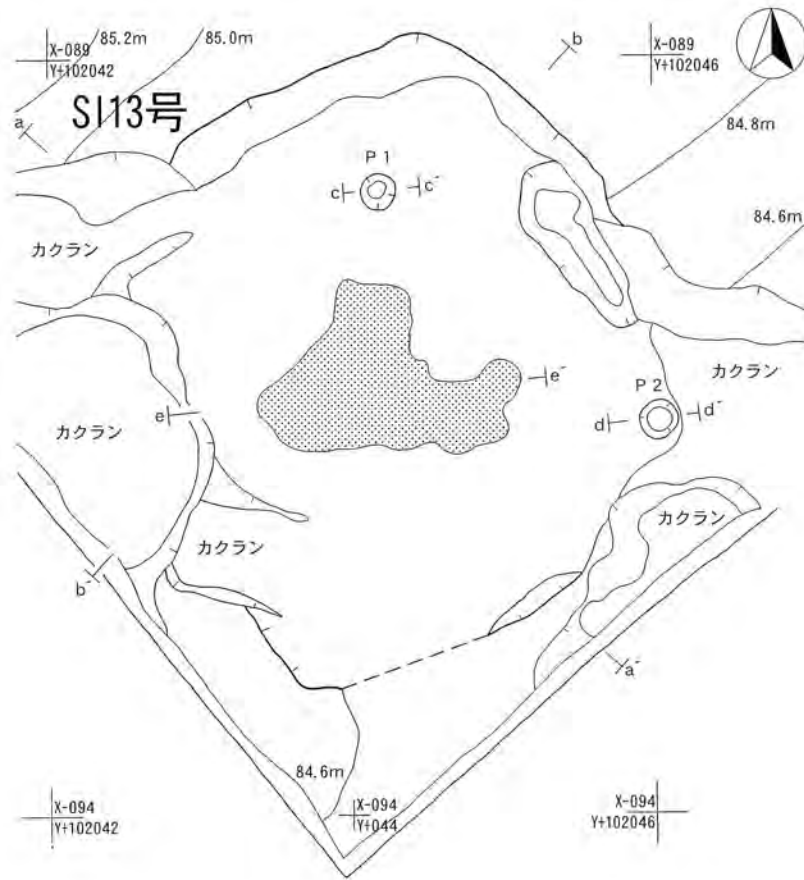
- S112号 焼土1
a1 軽埴土 (5YR5/2) 10YR6/6 径2~10mm 塊状 1% 砂質 やや密
- S112号 焼土2
a1 軽埴土 (2.5YR5/6) 10YR2/1 径2~5mm 塊状 10% 砂質 やや疎
- S112号 カマド
a1 軽埴土 (5YR6/3) 10YR2/1 径2~10mm 塊状 10% 砂質 やや疎
- S112号 煙道
a1 軽埴土 (10YR4/2) 10YR6/4 径5~30mm 塊状 10% 砂質 疎
a2 軽埴土 (10YR6/4) 10YR4/2 径5~500mm 塊状 30% 砂質 疎
a3 軽埴土(10YR3/1) 10YR6/4 径2~10mm 塊状 5% 砂質 疎

第48図 S112号カマド土層断面図、焼土遺構平面図・土層断面図

SI13号竪穴状遺構(第49~51図)

〈検出状況〉B区南東側の斜面部、IV層面から方形の掘り込み跡を確認した。

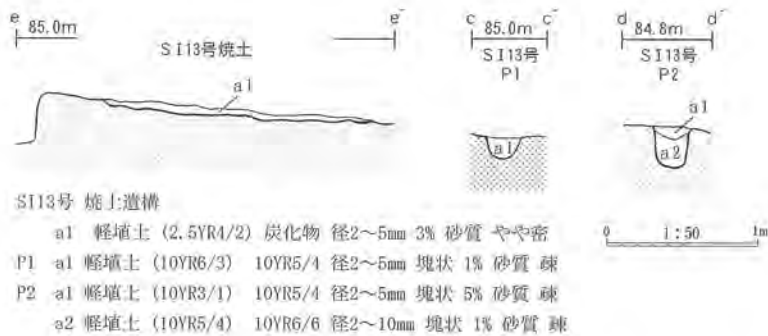
〈規模・形態〉北西-南東3.89m、深さ0.45mである。東西両側が攪乱より消失しているが隅丸方形のものと考えられる。SK18号と重複し、SI13号が新しい。覆土は5層に細別され、自然堆積と考えられる。〈カマド〉確認されなかった。床面の中央部が被熱により変色している。掘り込まれてはいない。〈出土遺物〉a1層中から甕の口縁部片と胴部片が出土している。〈時期・時代〉9世紀後半頃のものと考えられる。



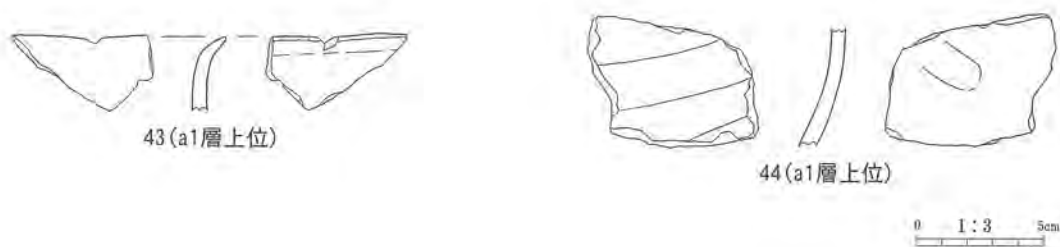
SI13号 竪穴状遺構

- | | | |
|------------------|------------------------|--------|
| a1 軽埴土 (10YR6/5) | 10YR7/6 径10~50mm 塊状 5% | やや砂質 疎 |
| a2 軽埴土 (10YR4/1) | 10YR6/6 径5~30mm 塊状 10% | やや砂質 疎 |
| a3 軽埴土 (10YR4/2) | 10YR6/6 径5~30mm 塊状 5% | やや砂質 疎 |
| a4 軽埴土 (10YR4/1) | 10YR6/6 径2~5mm 塊状 1% | やや砂質 疎 |
| a5 軽埴土 (10YR4/2) | 10YR6/6 径2~10mm 塊状 1% | やや砂質 疎 |

第49図 SI13号竪穴状遺構平面図・土層断面図(1)



第50図 SI13号竪穴状遺構土層断面図(2)



第51図 SI13号竪穴状遺構出土遺物

SI21号竪穴住居跡(第52~54図)

〈検出状況〉A区中央部、IV層面から方形の掘り込み跡を確認した。

〈規模・形態〉東西2.60m、南北2.80mである。隅丸方形である。SI11号とSK22号と重複し、SI21はSI11号より古く、SK22号より新しい。覆土は単層であり、覆土に地山塊が多く含まれることから人為堆積と考えられる。柱穴跡は確認されなかった。〈カマド〉2箇所を確認され、北東壁と南東壁に築かれている。北東壁のカマドは、焚口の痕跡が残っている。このカマドの北側で焼土遺構を確認した。掘り込まれてはいない。南東壁のカマドは焚口となっていたところに変色しており、ここから南東側に煙道と考えられる掘り込みが確認された。

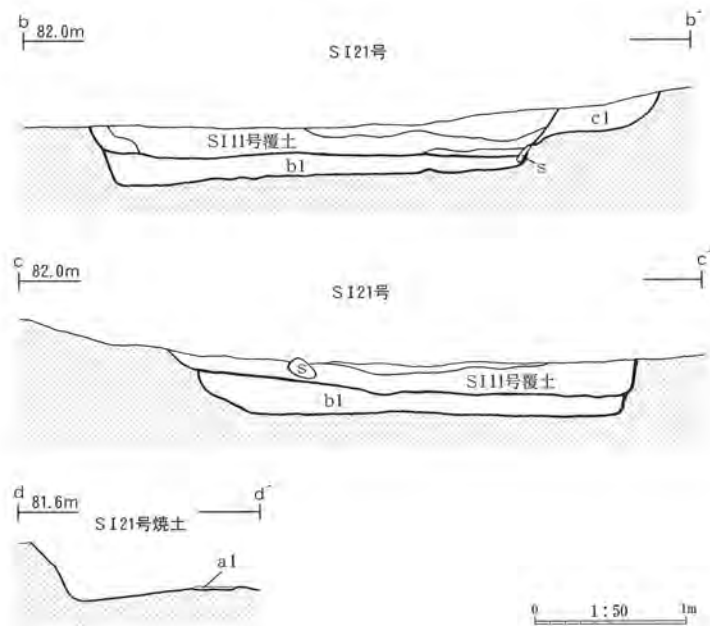
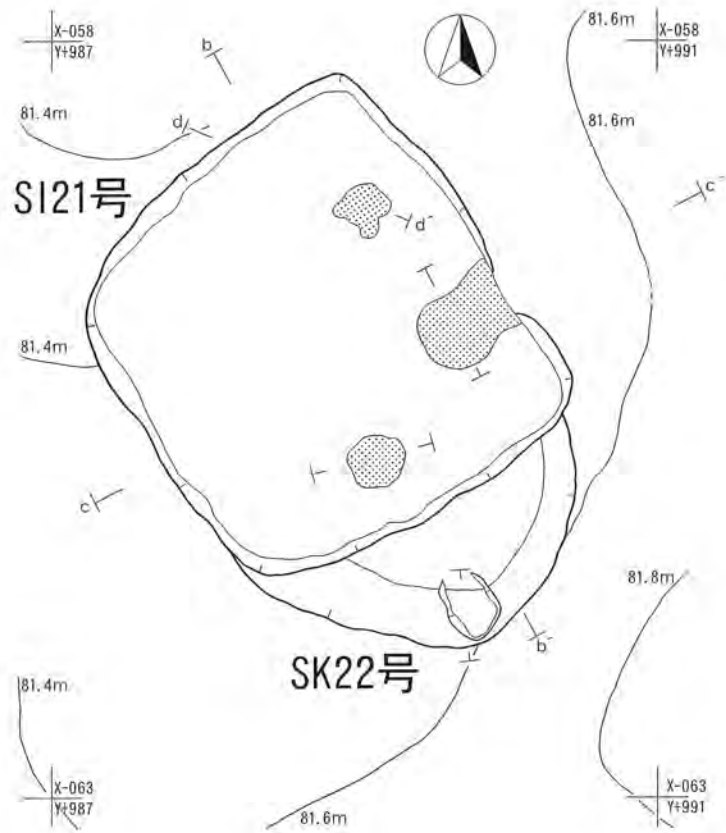
〈出土遺物〉b1層中、南東壁のカマドから甕の口縁部が出土している。〈時期・時代〉9世紀後半頃のものと考えられる。

SK22号土坑跡(第52図)

〈検出状況〉A区中央部、IV層面で確認した。

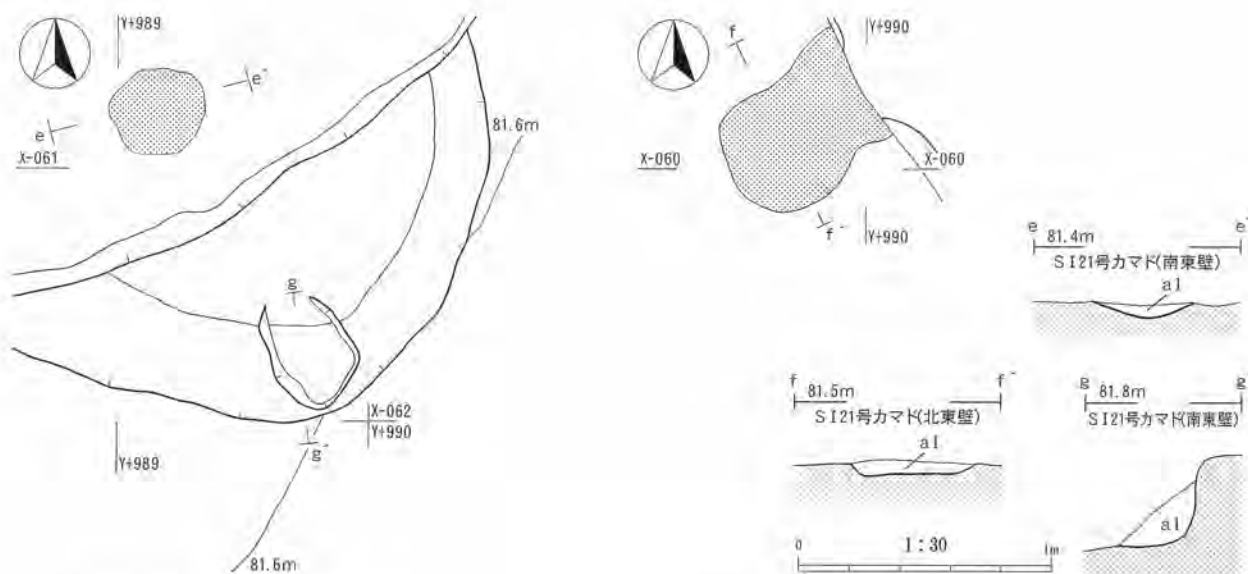
〈規模・形態〉深さが0.38mである。SK22号はSI11号とSI21号と重複し、両遺構より古い。覆土は単層である。竪穴住居跡となる可能性も考えられる。〈出土遺物〉なし。

〈時期・時代〉9世紀後半頃と考えられる。



- SI21号 竖穴住居跡
 b1 軽埴土 (10YR3/2) 10YR6/6 径2~5mm 塊状 10% 砂質 やや密
 SK22号 土坑跡
 c1 軽埴土 (10YR5/1) 10YR5/2 径2~10mm 塊状 5% 炭化物 径5~10mm 1% 砂質 疎
 SI21号 焼土遺構
 a1 軽埴土 (2.5YR5/3) 炭化物 径5~10mm 1% 砂質 密

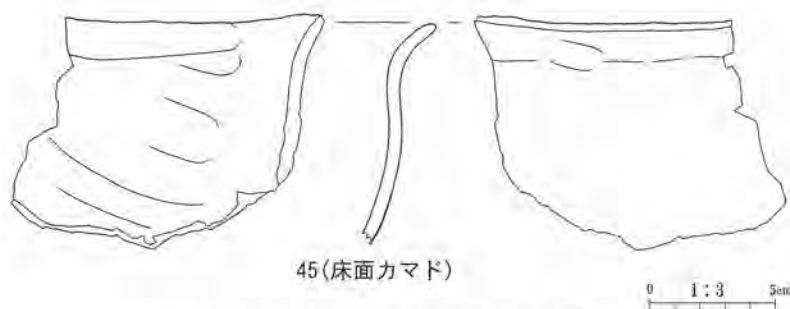
第52図 SI21号竖穴住居跡、SK22号土坑跡平面図・土層断面図



S121号カマド(南東壁)
 a1 軽埴土 (2.5YR5/3) やや砂質 やや密
 S121号 煙道部
 a1 軽埴土 (10YR5/3) 10YR6/3 径2~5mm 塊状 1% 砂質 やや密

S121号カマド(北東壁)
 a1 軽埴土 (2.5YR5/3) 炭化物 径5~10mm 1% 砂質 密

第53図 S121号カマド平面図・土層断面図



第54図 S121号竪穴住居跡出土遺物

SK8号陥し穴跡(第55図)

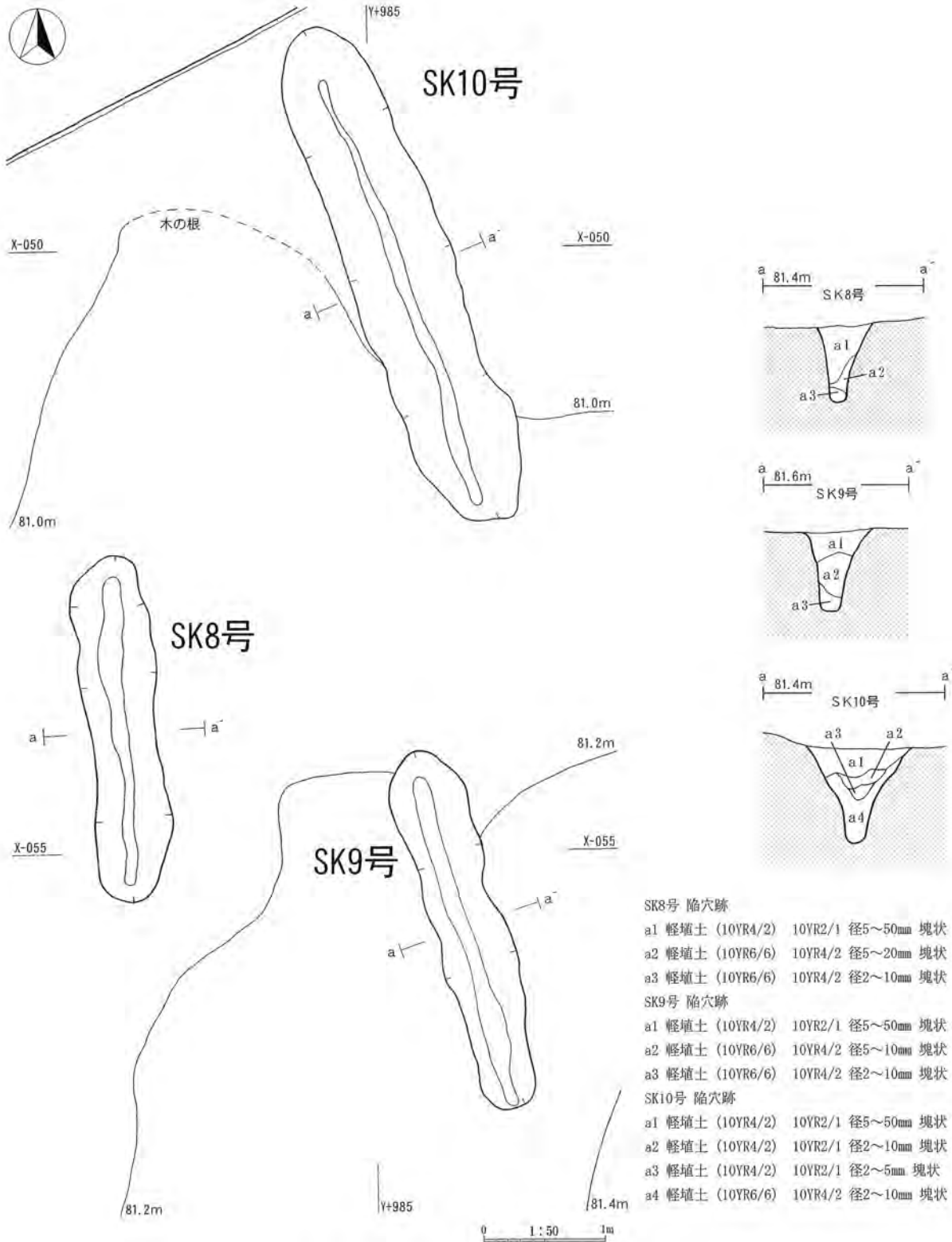
〈検出状況〉A区中央部、IV層面で確認した。
 〈規模・形態〉長軸2.88m、短軸0.66m、深さが0.65mである。他の遺構との重複はない。
 〈出土遺物〉なし。〈時期・時代〉縄文時代と考えられる。

SK9号陥し穴跡(第55図)

〈検出状況〉A区中央部、IV層面で確認した。
 〈規模・形態〉長軸2.98m、短軸0.66m、深さが0.68mである。他の遺構との重複はない。
 〈出土遺物〉なし。〈時期・時代〉縄文時代と考えられる。

SK10号陥し穴跡(第55図)

〈検出状況〉A区中央部、IV層面で確認した。
 〈規模・形態〉長軸4.38m、短軸0.90m、深さが0.84mである。他の遺構との重複はない。
 〈出土遺物〉なし。〈時期・時代〉縄文時代と考えられる。



- SK8号 陥穴跡
- a1 軽埴土 (10YR4/2) 10YR2/1 径5~50mm 塊状 10% 砂質 疎
 - a2 軽埴土 (10YR6/6) 10YR4/2 径5~20mm 塊状 5% 砂質 疎
 - a3 軽埴土 (10YR6/6) 10YR4/2 径2~10mm 塊状 3% 砂質 疎
- SK9号 陥穴跡
- a1 軽埴土 (10YR4/2) 10YR2/1 径5~50mm 塊状 20% 砂質 疎
 - a2 軽埴土 (10YR6/6) 10YR4/2 径5~10mm 塊状 5% 砂質 疎
 - a3 軽埴土 (10YR6/6) 10YR4/2 径2~10mm 塊状 3% 砂質 疎
- SK10号 陥穴跡
- a1 軽埴土 (10YR4/2) 10YR2/1 径5~50mm 塊状 20% 砂質 疎
 - a2 軽埴土 (10YR4/2) 10YR2/1 径2~10mm 塊状 3% 砂質 疎
 - a3 軽埴土 (10YR4/2) 10YR2/1 径2~5mm 塊状 1% 砂質 疎
 - a4 軽埴土 (10YR6/6) 10YR4/2 径2~10mm 塊状 5% 砂質 疎

第55図 SK8~10号陥し穴跡平面図・土層断面図

SK16号土坑跡(第56図)

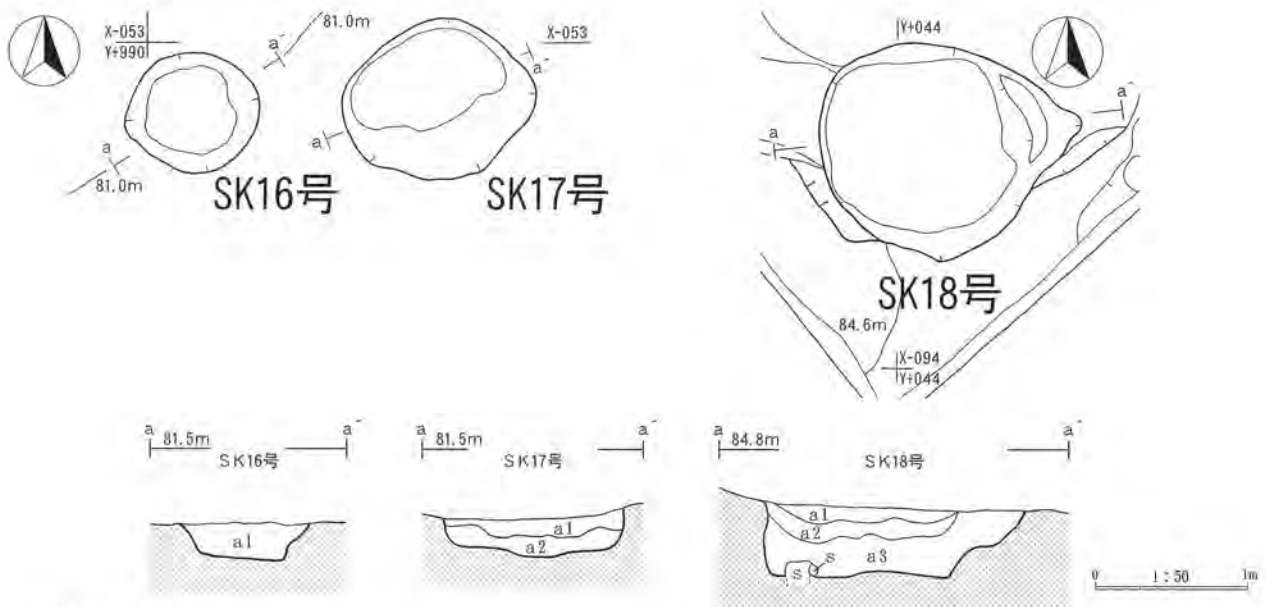
〈検出状況〉A区中央部、IV層面で確認した。〈規模・形態〉長軸0.88m、短軸0.79m、深さが0.24mである。他の遺構との重複はない。覆土は単層である。〈出土遺物〉a1層下位から縄文土器片が出土した。大木8b式のものと考えられる。〈時期・時代〉縄文時代中期中頃のものと考えられる。

SK17号土坑跡(第56図)

〈検出状況〉A区中央部、IV層面で確認した。〈規模・形態〉長軸1.18m、短軸1.06m、深さが0.32mである。他の遺構との重複はない。覆土は単層である。〈出土遺物〉a1層中位から縄文土器片が出土した。大木8b式のものと考えられる。〈時期・時代〉縄文時代中期中頃のものと考えられる。

SK18号土坑跡(第56、57図)

〈検出状況〉B区南東側斜面図、IV層面で確認した。〈規模・形態〉長軸1.74m、短軸1.43m、深さが0.51mである。SI13号と重複し、SK18号が古い。覆土は3層に細別される。〈出土遺物〉a1層下位から甕の口縁部片が出土した。〈時期・時代〉9世紀後半頃のものと考えられる。



SK16号土坑跡

a1 軽埴土(10YR4/1) 10YR5/3 径2~50mm 塊状 20% 砂質 礫

SK17号土坑跡

a1 軽埴土(10YR3/1) 10YR5/3 径2~10mm 塊状 3% 砂質 礫

a2 軽埴土(10YR4/1) 10YR5/3 径2~30mm 塊状 10% 砂質 礫

SK18号土坑跡

a1 軽埴土(10YR3/1) 10YR5/3 径2~5mm 塊状 3% 砂質 やや礫

a2 軽埴土(10YR3/1) 10YR5/3 径2~30mm 塊状 20% 砂質 やや礫

a3 軽埴土(10YR5/3) 10YR3/1 径2~10mm 塊状 5% 砂質 礫

第56図 SK16~18号土坑跡平面図・土層断面図



46(a1層下位)

第57図 SK18号土坑跡出土遺物

IV 調査のまとめ

発掘調査は、丘陵下部をA区、丘陵上部をB区として調査を実施した。以下、調査区ごとに成果を述べたい。

A区では、縄文時代中期(約4,500年前)の竪穴住居跡が3棟、陥し穴跡4基を確認した。竪穴住居跡内から、縄文土器や石鏃が出土した。

竪穴住居跡内には、床面に拳大の礫を円形に並べた石囲炉が築かれていた。

確認された3棟の竪穴住居跡は、柱穴が明確ではなく、配置もこれまでの事例のように規格性に乏しいものであった。SI3号竪穴住居跡については、調査区外まで遺構が続いており、集落跡が今回の調査区よりさらに北側に続いていくものと考えられる。

時代は下って、平安時代(約1,200年前)の竪穴住居跡も3棟確認された。

竪穴住居跡内ではカマド跡が確認され、煙を住居外に排煙するために掘り込まれた煙道も確認された。SI7号竪穴住居跡は、カマドを東側に設けており、煙道は割り貫いて築かれている。坏や甕、須恵器が出土しており、今回の調査で確認された竪穴住居跡のなかでは、出土遺物が多い遺構である。

カマドの位置については、確認された3棟の住居跡ともに東側に築かれており、効率的に排煙するため地形的に高くなっている東側にカマドを設けた可能性が考えられる。

B区では、平安時代(約1,200年前)の竪穴住居跡が6棟、竪穴状遺構が1基確認された。この6棟の竪穴住居跡、竪穴状遺構はA区で確認された竪穴住居跡と同時期のものと考えられる。

6棟の竪穴住居跡でカマドが確認されているが、原形をとどめていない状態のものであった。A区の3棟の竪穴住居跡とも併せ9棟すべての住居跡のカマドがほとんど残っていない状況であった。カマドの位置については、A区の住居跡にも見られたように、効率良く排煙できるような地形的に高い場所を意図して築いている傾向が伺えた。カマドの煙道についてA,B区ともに後世の削平を受けており、煙道プランが検出時から確認できたものも、本来は割り貫いて築かれていた可能性が考えられる。

今回の調査では、縄文時代の集落跡と平安時代の集落跡が発見された。平安時代の集落跡は、重茂地区において最初の事例となった。近隣では、赤前地区や津軽石地区でも三陸道、防災集落事業等により奈良時代や平安時代の集落跡が確認され、閉伊地域の古代集落について今回の調査事例と併せ情報の蓄積が大きく進んだ。重茂館遺跡群の古代集落跡も含め、資料にもとづいた具体的な研究が今後進むものと期待される。

(参考文献)

『重茂館遺跡群―第1次調査報告書―』 宮古市埋蔵文化財調査報告書 31集 1992年

『重茂館遺跡群―第2次発掘調査報告書―』 宮古市埋蔵文化財調査報告書 79集 2012年

写真図版 1



1 調査区遠景(1) (北から)



2 調査区遠景(2) (南東から)

写真図版 2



3 A区完掘（南東から）

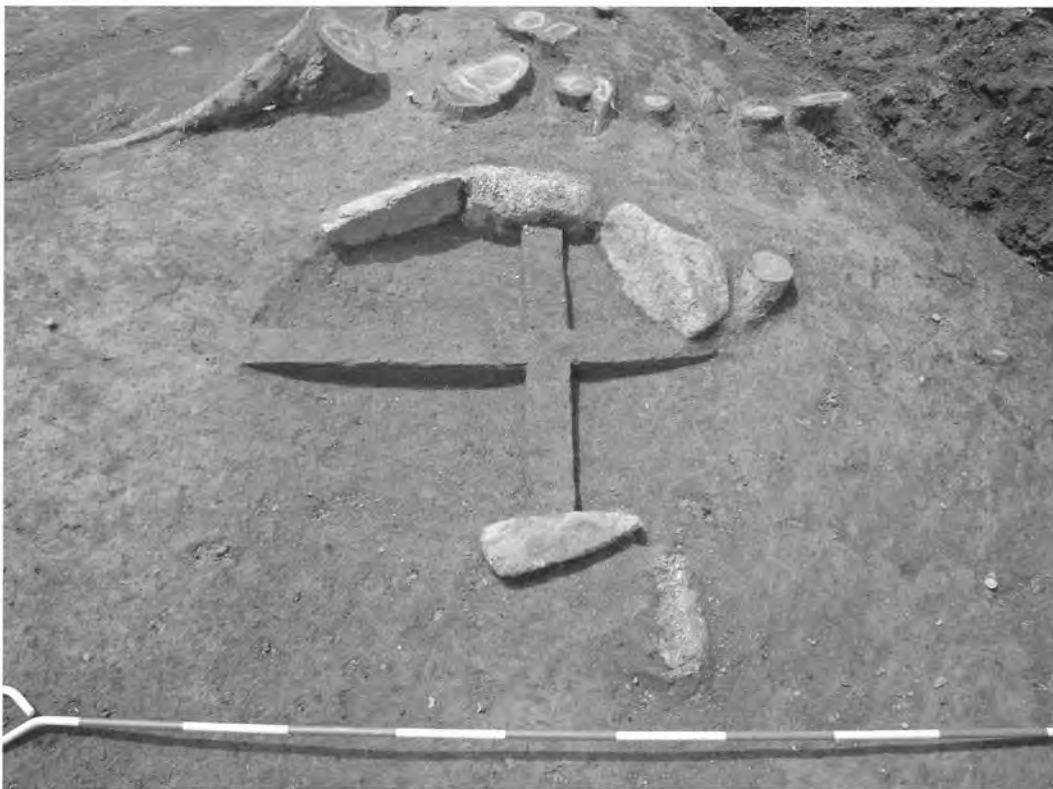


4 SI3号竪穴住居跡 調査状況（南から）

写真図版 3



5 SI3号竪穴住居跡 調査状況（東から）



6 SI3号炉跡 調査状況（東から）

写真図版 4



7 S14号、20号竪穴住居跡 調査状況(1) (南から)

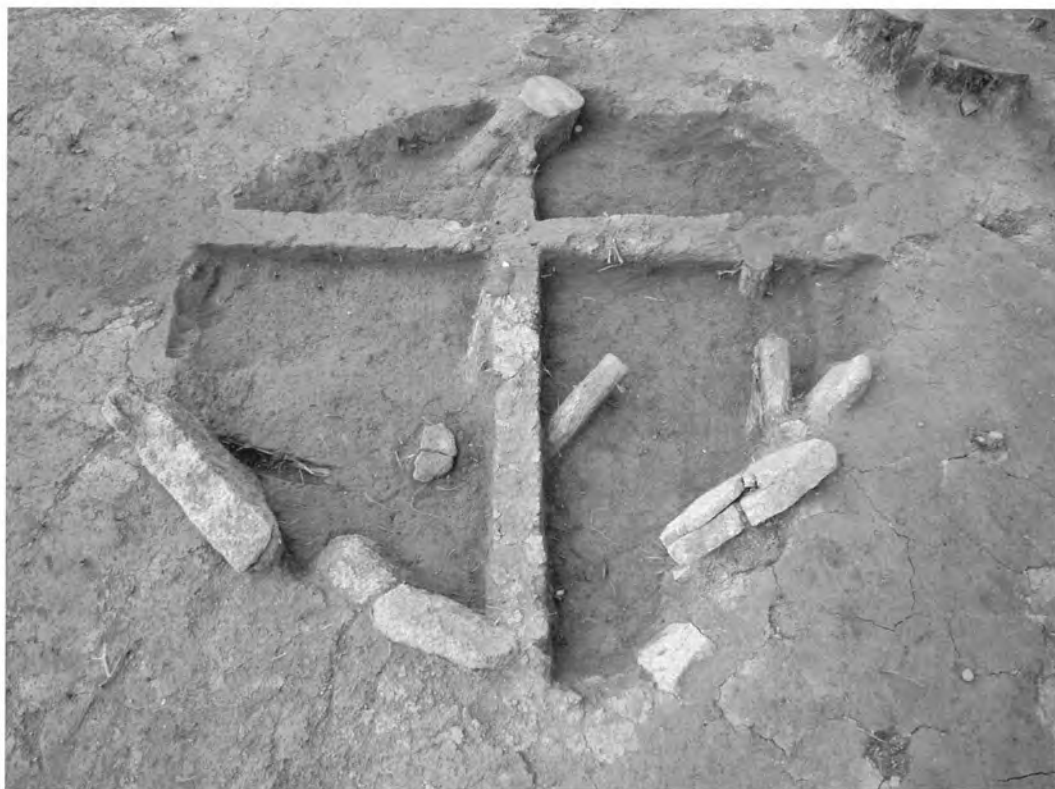


8 S14号、20号竪穴住居跡 調査状況(2) (南から)

写真図版 5



9 SI14号炉跡 検出状況（南から）

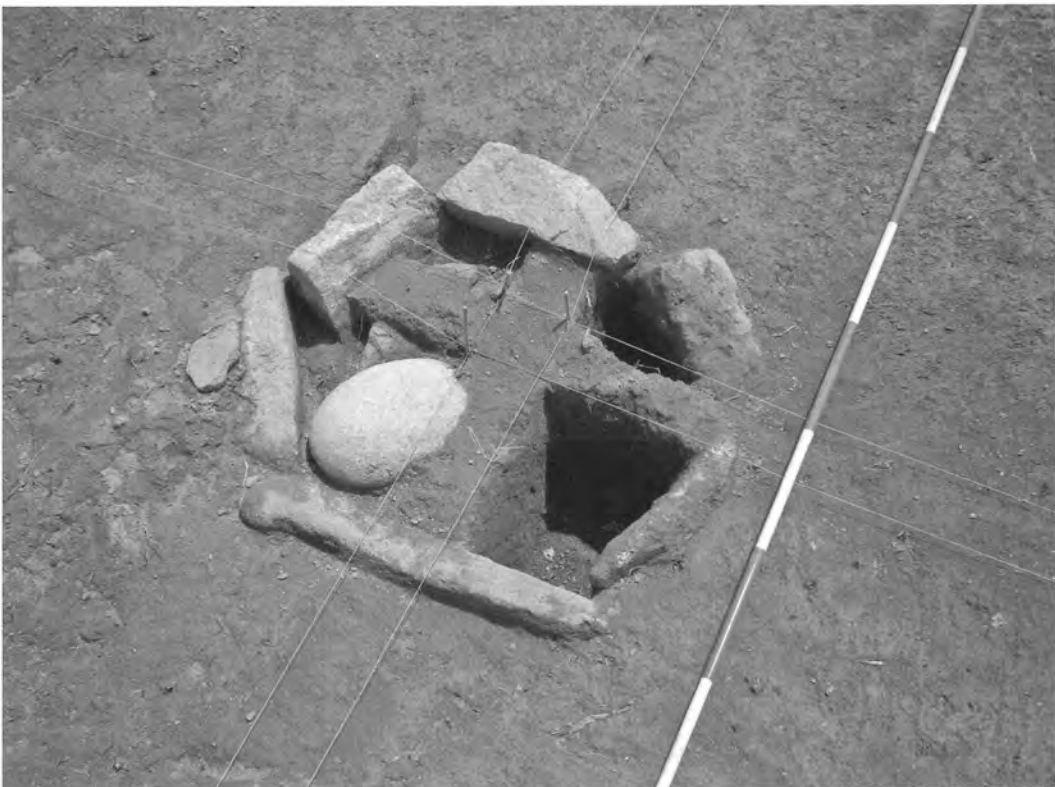


10 SI14号炉跡 調査状況（南から）

写真図版 6



11 SI20号竪穴住居跡 完掘（南から）



12 SI20号炉跡 調査状況（南から）

写真図版 7



13 SK8～10号陥し穴跡 完掘（南から）



14 S17号竪穴住居跡 調査状況（北西から）

写真図版 8



15 SI7号カマド 完掘 (北西から)



16 SI11号竪穴住居跡 調査状況 (南西から)

写真図版 9



17 SI11号カマド 検出状況 (南西から)



18 SI11号カマド 完掘 (南西から)

写真図版10



19 B区調査状況（南から）



20 SI1号竖穴住居跡 完掘（北から）

写真図版11



21 SI1号カマド 完掘（北から）



22 SI2号竪穴住居跡 調査状況（南西から）

写真図版12



23 SI2号竪穴住居跡 完掘（東から）



24 SI2号カマド 完掘（東から）

写真図版13



25 S14号竪穴住居跡 完掘（南西から）



26 S14号カマド 調査状況（南西から）

写真図版14



27 SI5号竪穴住居跡 調査状況（南西から）



28 SI5号竪穴住居跡 完掘（北から）

写真図版15



29 SI5号カマド 完掘 (北から)



30 SI6号竪穴住居跡 調査状況(1) (南東から)

写真図版16



31 SI6号竪穴住居跡 調査状況(2) (南西から)



32 SI6号カマド 完掘 (南西から)

写真図版17



33 SI6号竪穴住居跡 鉄製品 出土状況（北東から）



34 SI12号竪穴住居跡 調査状況(1)（南から）

写真図版18



35 SI12号竪穴住居跡 調査状況(2) (南西から)



36 SI12号カマド 完掘 (南西から)

写真図版19

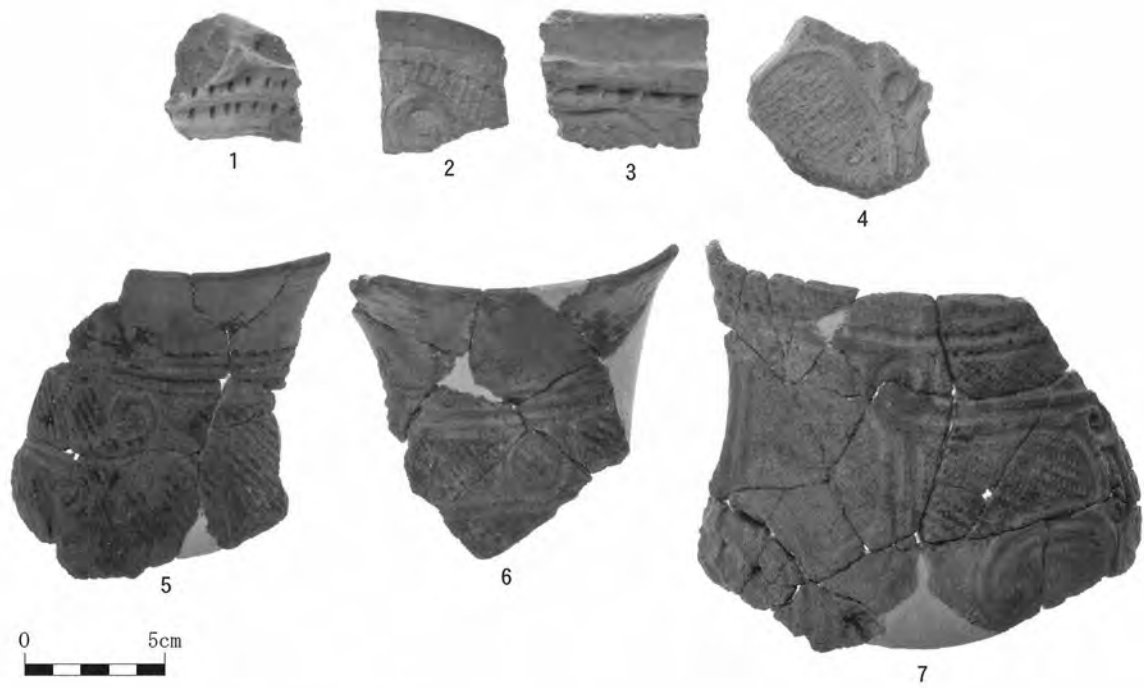


37 SI13号堅穴状遺構、SK18号土坑跡 完掘（南東から）

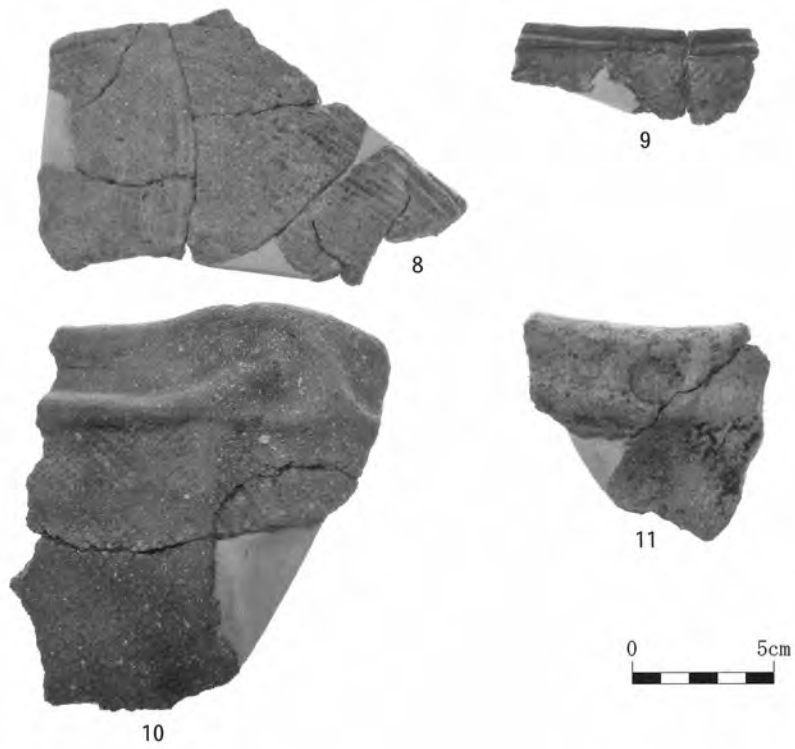


38 B区 完掘（南東から）

写真図版20



39 SI3号竖穴住居跡 出土遺物(1)

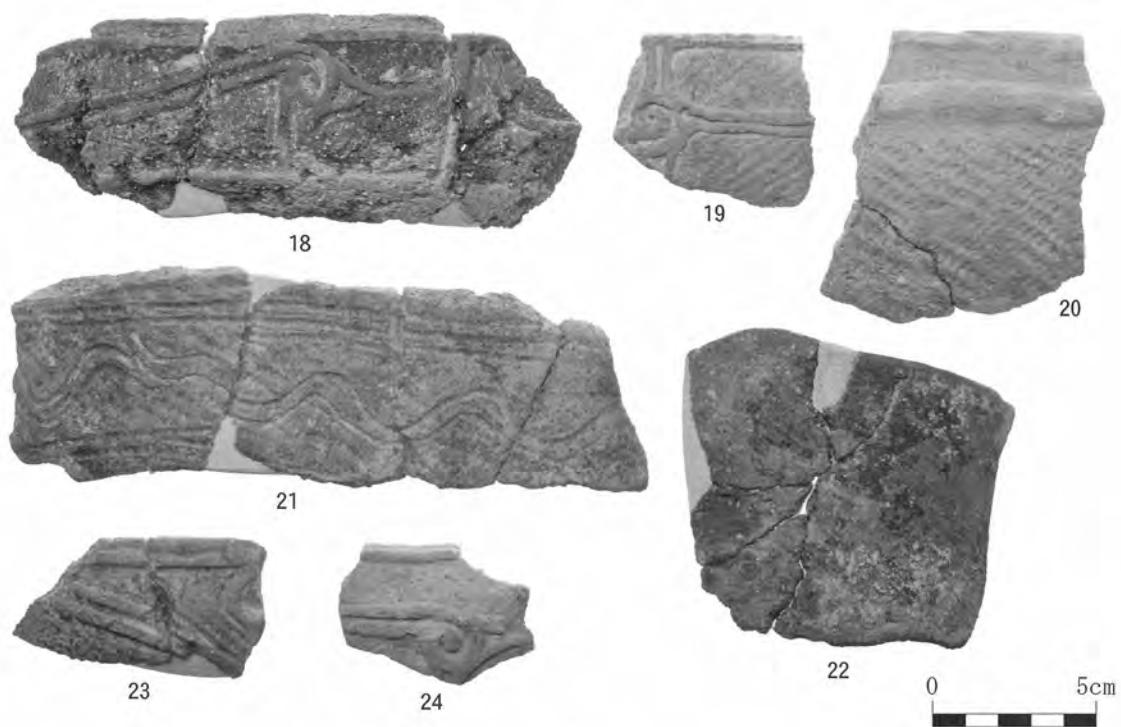


40 SI3号竖穴住居跡 出土遺物(2)

写真図版21



41 SI3号竪穴住居跡 出土遺物(3)

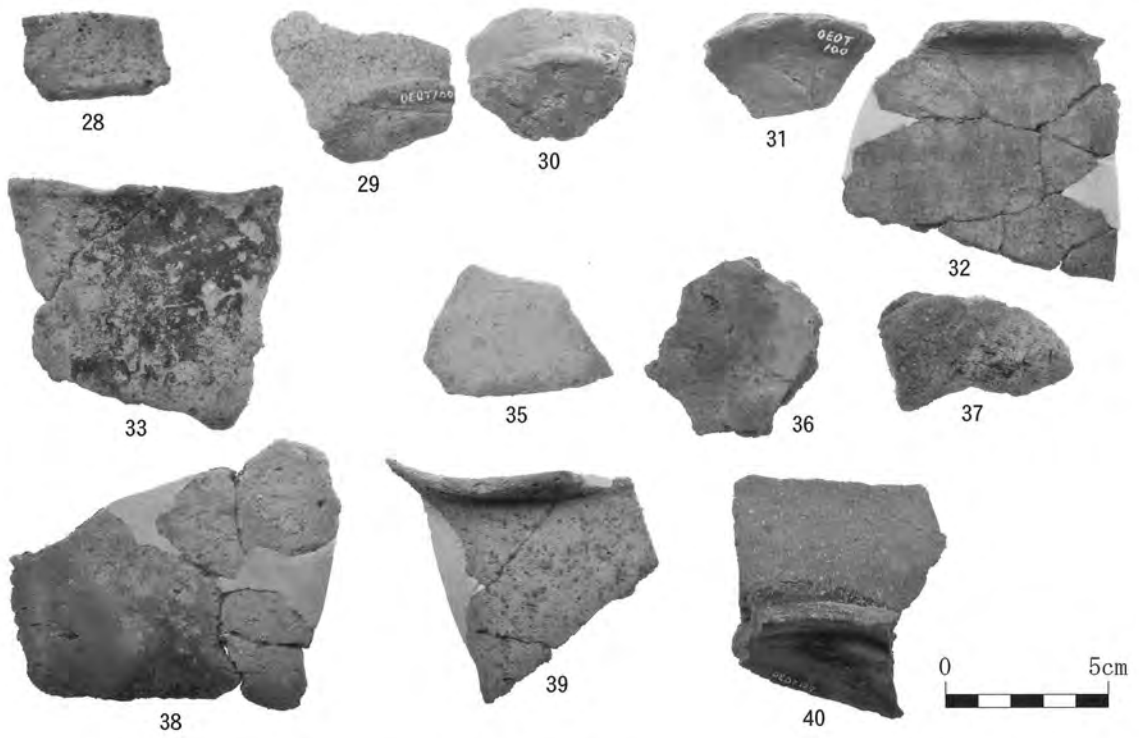


42 SI14号竪穴住居跡 出土遺物

写真図版22

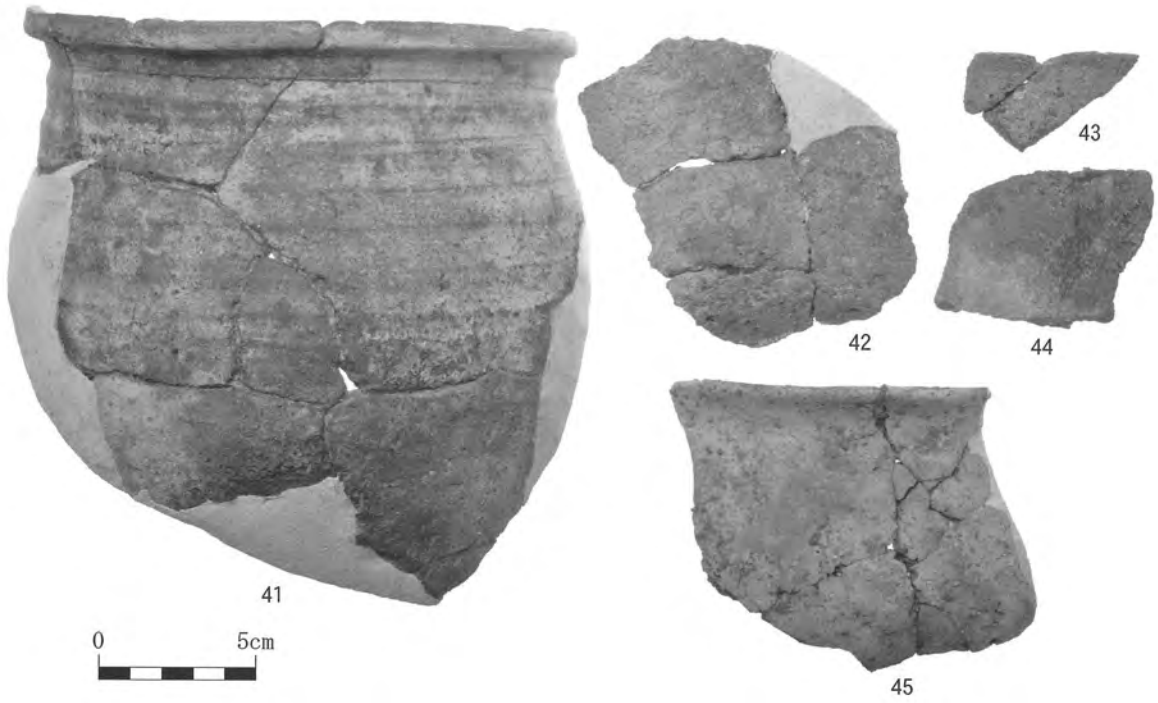


43 SI20号竪穴住居跡 出土遺物

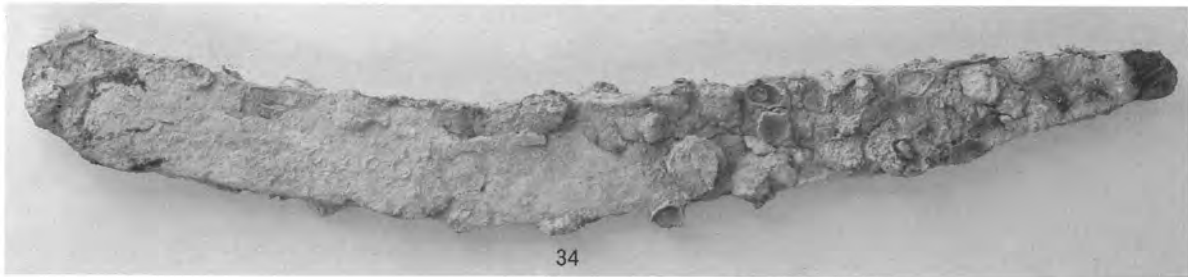


44 SI2号、4号、5号、6号、7号竪穴住居跡 出土遺物

写真図版23



45 SI11号竪穴住居跡、13号竪穴状遺構、21号竪穴住居跡 出土遺物



46 SI6号竪穴住居跡 出土遺物（鉄製品）（1）



47 SI6号竪穴住居跡 出土遺物（鉄製品）（2）

写真図版24



48 重茂小学校児童の遺跡見学の様子 (2013. 05. 29)



49 遺跡現地説明会の様子 (2013. 06. 08)

報告書抄録

ふりがな	おもえたていせきぐん		
書名	重茂館遺跡群		
副書名	- 重茂漁港地区漁業集落防災機能強化事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 - (第4次発掘調査)		
巻次			
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書		
シリーズ番号	88		
編著者名	安原 誠		
編集機関	宮古市教育委員会		
所在地	〒027-0097 岩手県宮古市崎山第1地割16番地1 TEL.0193-65-7527 FAX.0193-65-7508		
発行年月日	平成29(2017)年2月28日		

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おもえたていせきぐん 重茂館遺跡群	いわてけん 岩手県 みやこしおもえ 宮古市重茂 だいいちあわりない 第1地割内	03202	LG55-0284	39°34'50"	142°1'15"	250401 ～ 250710	3,800	重茂漁港地区 漁業集落防災 機能強化事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
重茂館遺跡群	集落跡 城館跡	縄文・中世	竪穴住居跡 陥し穴跡 土坑跡	縄文土器 土師器 鉄製品	縄文時代中期 の集落跡 9世紀後半の 集落跡

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

- 1 1979 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』
- 2 1980 『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』
- 3 1983 『宮古市遺跡分布調査報告書1』
- 4 1984 『宮古市遺跡分布調査報告書2』
- 5 1984 『赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書』
- 6 1985 『宮古市遺跡分布調査報告書3』
- 7 1985 『金浜館跡発掘調査報告書』
- 8 1986 『宮古市遺跡分布調査報告書4』
- 9 1986 『宮古市遺跡分布図-昭和60年度版-』
- 10 1986 『中谷地・島田遺跡調査報告書』
- 11 1987 『崎山貝塚・トロノ木IV遺跡調査報告書』
- 12 1987 『寒風・早稲橋IV遺跡調査報告書』
- 13 1987 『崎山遺跡群Ⅰ-昭和60年度発掘調査概報-』
- 14 1988 『青猿Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群(堀合館)-昭和62年度発掘調査報告書-』
- 15 1988 『崎山遺跡群Ⅱ-昭和62年度発掘調査概報-』
- 16 1989 『千鶴遺跡-昭和62年度発掘調査報告書-』
- 17 1989 『トロノ木I遺跡-第1~7次発掘調査報告書-』
- 18 1989 『崎山遺跡群Ⅲ-昭和63年度発掘調査概報-』
- 19 1989 『高根遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-』
- 20 1989 『狐崎VI遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-』
- 21 1989 『崎山トロノ木IV遺跡-昭和63年度調査報告書-』
- 22 1990 『狐崎遺跡-平成元年度発掘調査報告書-』
- 23 1990 『崎山遺跡群IV-平成元年度発掘調査概報-』
- 24 1990 『磯鶏館山遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-』
- 25 1990 『銀ヶ崎館山貝塚-平成元年度発掘調査報告書-』
- 26 1991 『崎山遺跡群V-平成2年度発掘調査概報-』
- 27 1991 『青猿Ⅰ・千徳城遺跡群-平成元年・2年度発掘調査報告書-』
- 28 1990 『熊野町遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-』
- 29 1991 『弘川I遺跡-平成2年度発掘調査報告書-』
- 30 1992 『金浜I遺跡(昭和58年度)・大付遺跡(平成2年度)発掘調査報告書』
- 31 1992 『重茂館遺跡群-第1次調査報告書-』
- 32 1992 『黒森町I遺跡-平成2年度発掘調査報告書-』
- 33 1992 『高根遺跡-平成3年度発掘調査報告書-』
- 34 1992 『鯉沢遺跡-平成2年度発掘調査報告書-』
- 35 1992 『大付遺跡-平成3年度発掘調査報告書-』
- 36 1992 『細越I遺跡・芋野VI遺跡-農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 37 1992 『崎山遺跡群VI-平成3年度発掘調査概報-』
- 38 1993 『萩沢VI遺跡-平成4年度発掘調査報告書-』
- 39 1993 『早稲橋VI遺跡-第1次・第2次発掘調査報告書-』
- 40 1993 『崎山遺跡群VII-平成4年度発掘調査概報-』
- 41 1994 『崎山遺跡群VIII-平成5年度発掘調査概報-』
- 42 1995 『赤前I牛子沢遺跡-平成4年度発掘調査報告書-』
- 43 1995 『磯鶏館山遺跡発掘調査報告書』
- 44 1995 『崎山貝塚-範囲確認調査報告書-』
- 45 1995 『笹沢Ⅰ・加村・仲組Ⅲ・堺ノ神遺跡-市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 46 1995 『花原市遺跡-平成4年度発掘調査報告書-』
- 47 1995 『宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ 早稲橋VI遺跡・崎山貝塚』
- 48 1996 『大付遺跡-平成5年・6年度発掘調査報告書-』
- 49 1997 『花原市遺跡-平成8年度発掘調査報告書-』
- 50 1997 『白石遺跡-第6次発掘調査報告書-』
- 51 1998 『赤畑・天神山・山口館-北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書-』
- 52 1998 『藤畑遺跡-平成9年度発掘調査報告書-』
- 53 1999 『赤前Ⅲ・赤前IV八枚田・赤前V柳沢・赤前VI釜屋ヶ沢・小堀内Ⅲ遺跡-水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 54 1999 『千鶴IV遺跡-水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 55 1999 『崎山貝塚-第12次・13次内容確認調査概報』
- 56 2000 『木戸井内VI・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡-特別高圧送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 57 2002 『山口館跡-北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 58 2002 『小沢VI大上遺跡-市内遺跡発掘調査報告書2-』
- 59 2003 『大又沢VI遺跡-東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書-』
- 60 2003 『上根井沢I遺跡・沼里遺跡-市内遺跡発掘調査報告書3-』
- 61 2003 『早稲橋VI遺跡第6次調査-市内遺跡発掘調査報告書4-』
- 62 2003 『下在家I遺跡-平成14年度発掘調査報告書-』
- 63 2004 『大程Ⅱ遺跡・平浜遺跡-市道閉伊崎線改良工事関係発掘調査報告書-』
- 64 2005 『弘川館跡-瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書-』
- 65 2006 『高浜VI地神遺跡-高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書-』
- 66 2006 『崎山貝塚第20次調査・早稲橋Ⅱ遺跡第7次調査-市内遺跡発掘調査報告書5-』
- 67 2006 『八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込I遺跡-市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書-』
- 68 2006 『木戸井内IV遺跡-宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書-』
- 69 2006 『菅ノ沢遺跡発掘調査-市内遺跡発掘調査報告書6-』
- 70 2007 『山口館跡-市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書-』
- 71 2007 『近内館跡-宮古市都市計画課内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書-』
- 72 2007 『牛沢遺跡・大付遺跡第11次調査-市内遺跡発掘調査報告書7-』
- 73 2007 『弘川館跡第2次調査-宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書-』
- 74 2008 『荷竹日向IV遺跡-市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書』
- 75 2008 『宮古市遺跡分布調査報告書5』
- 76 2009 『国指定史跡崎山貝塚 第IV期内容確認調査概報(骨角器篇)』
- 77 2010 『宮古市遺跡分布調査報告書6』
- 78 2011 『宮古市遺跡分布調査報告書7』
- 79 2012 『重茂館遺跡群-第2次発掘調査報告書-』
- 80 2014 『八木沢駒込I遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡-市道磯鶏金浜線道路改良工事関係発掘調査報告書-』
- 81 2014 『蜂ヶ沢I遺跡・山口駒込I遺跡・山口駒込Ⅱ遺跡-市道蜂ヶ沢線道路改良工事関係発掘調査報告書-』
- 82 2014 『赤畑東遺跡-山口病院新棟建設工事関係発掘調査報告書-』
- 83 2015 『千徳城遺跡群-一条工務店モデルハウス建設工事関係発掘調査報告書-』
- 84 2015 『黒森町I遺跡-宗教法人「先天大道-貫道日本總天壇」研修施設建設工事関係発掘調査報告書-』
- 85 2015 『菅ノ沢遺跡・欄館I遺跡-市道長根岩船線道路改良工事関係発掘調査報告書-』
- 86 2016 『千徳城遺跡群-アバト建築関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 87 2017 『重茂館遺跡群-重茂小学校仮設グラウンド整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-(第3次発掘調査)』

宮古市埋蔵文化財調査報告書88

重茂館遺跡群発掘調査報告書

— 重茂漁港地区漁業集落防災機能強化事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 —
(第4次発掘調査)

発行 平成29(2017)年2月28日
宮古市教育委員会
〒028-2101 岩手県宮古市茂市2-112-1

編集 宮古市教育委員会 文化課
〒028-0097 岩手県宮古市崎山第1地割16番地1
TEL.0193-65-7527 FAX.0193-65-7508

印刷 ショウジ印刷株式会社
〒027-0084 岩手県宮古市末広町4-10
TEL.0193-62-1326

